

平成20年度 後期 (第5期) 研究教員

研究報告集録

第 5 号

はじめに

<中学校美術科>

○ 主体的に鑑賞する生徒の育成

—コミュニケーション活動の工夫を通して—

宮古島市立北中学校

友利 尚子

平成21年3月

宮古島市立教育研究所

は じ め に

教育委員会が所管する教育センターにおいては、研修の実施のみならず、学校現場や大学、独立行政法人教員研修センター等と密接に連携・協力して、地域に根ざした教材やカリキュラム等の開発研究を行うとともに、優れた指導実践を蓄積し、学校現場に提供していくなど、その機能の充実・強化を図ることが必要である。（平成 18 年中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」）

教材研究や授業研究，教師同士の相互評価といった取り組みは，教師の資質の不断の向上にとって極めて重要。各教育センターがこのような取り組みを支援することが求められる。（平成 20 年中教審答申「幼稚園，小中高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」）

上記の答申は，教育センター（教育研究所）の役割について述べたものであり，その重大さを改めて痛感するものであります。

さて，宮古島市立教育研究所においても長期教育研究員の研修が実施されてから，5期6人の研修を終えることとなります。

今回は平成 20 年度後期 1 人が修了しました。この集録は「主体的に鑑賞する生徒の育成～コミュニケーション活動の工夫を通して～」のテーマについて研究したものです。本研究では，生徒一人ひとりの感性を豊かにするためには，鑑賞活動の充実が大切だと考え，主体的な鑑賞の指導充実をキーワードに研究を進めてきました。これまでの一斉指導では，一定の価値に生徒を引き寄せる授業になりがちな受動的な授業を改善し，コミュニケーション活動を工夫することによって，主体的に鑑賞活動に取り組みせ，自分の思いを語り，友達と共に考え，感じたことを発表し合うプロセスで，生徒に価値意識を育み，鑑賞指導を重視した取り組みであります。

この度の研究成果が，各学校における美術教育に寄与することができ，教育実践に活かされることを期待しています。

結びに，厳しい条件の中ではありましたが，研究教員の真摯な研究態度に敬意を表し，研究を進めるに当たってご指導いただきました琉球大学の緒方先生，美術科の先生方，学校，関係各位に感謝申し上げます。

平成 21 年 3 月
宮古島市立教育研究所
所長 本村 幸雄

平成20年度 後期

研究報告書

＜中学校美術科＞

主体的に鑑賞する生徒の育成

～コミュニケーション活動の工夫を通して～



宮古島市立教育研究所 第5期研究教員

宮古島市立北中学校 友利 尚子

目 次

| | | |
|------|-------------------|----|
| I | テーマ設定の理由 | 1 |
| II | 研究目標 | 2 |
| III | 研究仮説 | 2 |
| IV | 検証計画 | 2 |
| V | 全体構想図 | 3 |
| VI | 研究計画 | 4 |
| VII | 理論研究 | |
| 1 | 鑑賞教育についての考え方 | 5 |
| (1) | 美術教育について | |
| (2) | 鑑賞教育について | |
| 2 | 鑑賞についての考え方 | 5 |
| (1) | 鑑賞における基本的な考え | |
| (2) | 主体的な鑑賞について | |
| (3) | 鑑賞能力の発達段階と鑑賞教育 | |
| (4) | 感性についての考え方 | |
| 3 | コミュニケーションについての考え方 | 8 |
| (1) | コミュニケーションについて | |
| (2) | 対話が及ぼす人間形成 | |
| (3) | 言語活動との関わり | |
| 4 | 具体的な鑑賞方法についての考え方 | 9 |
| (1) | 対話型鑑賞法について | |
| (2) | 比較に基づく鑑賞の考え方 | |
| (3) | 鑑賞する作品の選択方法 | |
| (4) | 鑑賞環境づくり | |
| (5) | 鑑賞の評価についての考え方 | |
| VIII | 仮説検証のための授業実践 | |
| 1 | 検証授業指導案 | 16 |
| 2 | 題材名 | |
| 3 | 題材について | |
| 4 | 題材目標 | 17 |
| 5 | 指導計画・検証計画 | 18 |
| 6 | 本時の学習 | 19 |
| IX | 研究のまとめ | |
| 1 | 研究仮説(1)の検証 | 25 |
| 2 | 研究仮説(2)の検証 | 27 |
| 3 | 研究の成果と課題 | 30 |
| (1) | 成果 | |
| (2) | 課題 | |
| 4 | おわりに | 30 |
| | 〈主な参考文献・引用文献〉 | 31 |
| | 〈資料〉 | 32 |

主体的に鑑賞する生徒の育成

～コミュニケーション活動の工夫を通して～

宮古島市立北中学校 教諭 友利尚子

テーマ設定の理由

人は自然の豊かな色彩や造形的な美しさに触れたとき、感動を覚えたり、心が癒されたりする。また、芸術的な作品を見たとき、色・形・材料などから表現のよさや美しさ、作者のメッセージなどを感じ取るだろう。現代のデザインは、大量生産的でコンピュータ等のハイテクノロジーを駆使し、今日的な造形感覚を生かした商品としての価値の高いものが多い。しかし、一方で、数は少ないが、素朴で手作りの暖かみがある作品や伝統工芸家の熟練した技法による一品制作の作品にも深い魅力がある。これらのものを日常に取り入れることで、生活が豊かになる。流行にとらわれず、美しいものやよいものを自分の目や心で確かめ、その価値を感じ取る力を身に付けることは大切であり、自己の美的感覚で選んだものが生活に潤いを与え、その中で、心が豊かになっていく。そのことが、感性を豊かにすると考える。

一人一人の感性を豊かにするには、鑑賞活動の充実が大切だと考える。美術教育における鑑賞活動は、主体的に様々な美術作品を観て、それらから価値を発見する活動である。このような活動を通して、造形のよさや美しさ、作者の心情や表現の意図と工夫などへの見方が深まり、感性が豊かになる。さらに、創造力を身に付ける観点からも、鑑賞活動は、発想やイメージを広げる大切なものである。

現在、本校における鑑賞活動は、主に2つある。一つは、技法習得のための鑑賞である。生徒は鑑賞において、新しく知った技法を作品制作に活用する。これは、一定の価値に生徒を引き寄せせるような授業になりがちである。ここでは、生徒は鑑賞における価値の発見を楽しく取り組んでいるが、知識に基づいたものになっており、生徒自身の素直な目や心で主体的に作品を深く味わい楽しむ鑑賞とはいえない。もう一つは、完成作品を生徒が相互評価する活動である。生徒は作品から、感じ取ったことを文章に表す。この活動は、生徒にとって個別になっているため、他の生徒の意見を互いに聞いたりする場面がなく、生徒一人一人の感じ取る力を広げることは難しい。生徒の感性を豊かにするためには、主体的に鑑賞活動を取り組ませ、一人一人の思いを大切にし、その考えを深めさせようとする工夫が必要である。

主体的な鑑賞活動を実現するためには、生徒一人一人が、作品のよさや美しさに気づき、作者からのメッセージを自分なりに感じ取り、自分の言葉で作品を語る力を身に付けさせるような活動の工夫が必要である。また、自分が発見した価値を言葉にして伝え合うことにより、自分と同じ発見をした人がいることに気づき喜んだり、自分とは違う見方や考え方が分かり、更に新しい価値を発見したりすることにより、感じ取る力が広げられると思う。その手立てとして、教師は、作品と対話を深めさせるかのように作品と向き合わせる工夫や、友だち同志で、作品について感じたことや考えたことを伝え合うコミュニケーションの取り組みなどをすることが必要である。このような活動を工夫することにより、生徒に鑑賞の楽しさを味わわせ、感性を豊かにすることができると思う。

以上のことから、作品と対話を深めるような鑑賞の工夫、生徒相互のコミュニケーション活動の工夫をすれば、鑑賞の楽しさを味わわせることができ、主体的に鑑賞活動する生徒が育成されるであろうと考え、本テーマを設定した。

研究目標

生徒一人一人が主体的に鑑賞する活動の実践をするために、鑑賞の楽しさを味わわせる工夫をし、作品との対話を深める鑑賞の仕方、コミュニケーション活動の工夫を研究する。

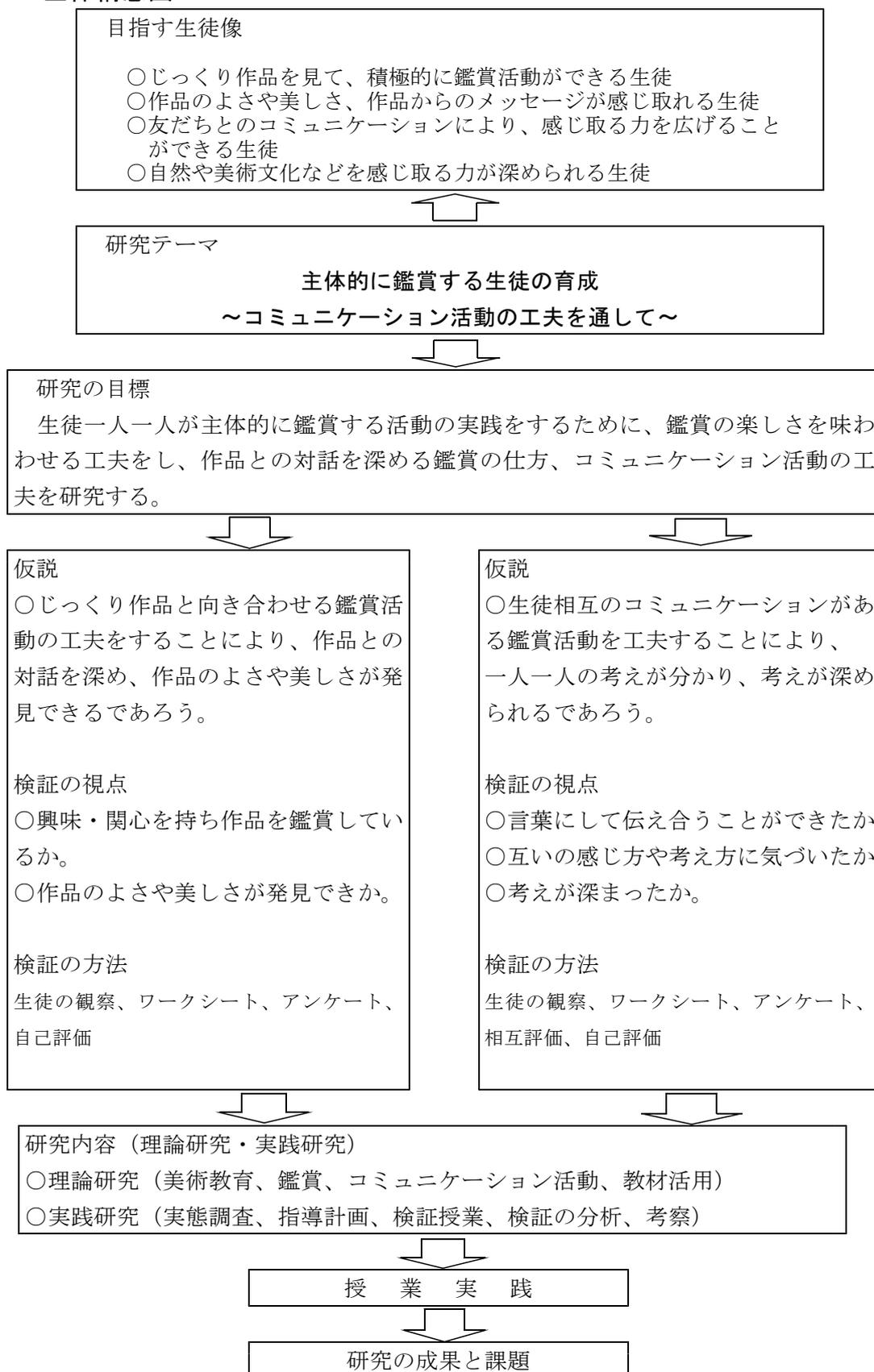
研究仮説

- 1 じっくり作品と向き合わせる鑑賞活動の工夫をすることにより、作品との対話を深め、作品のよさや美しさが発見できるであろう。
- 2 生徒相互のコミュニケーションがある鑑賞活動を工夫することにより、一人一人の考えが分かり、考えが深められるであろう。

検証計画

| 研究仮説 | 検証の視点 | 検証方法 | 検証場面 | 検証結果 |
|--|---|---|---|---|
| <p>仮説 1</p> <p>じっくり作品と向き合わせる鑑賞活動の工夫をすることにより、作品との対話を深め、作品のよさや美しさが発見できるであろう。</p> | <p>興味・関心を持ち作品を鑑賞しているか。</p> <p>作品のよさや美しさが発見できたか。</p> | <p>生徒の観察</p> <p>アンケート</p> <p>ワークシート</p> <p>自己評価</p> | <p>実践の過程</p> <p>実践の前後</p> <p>実践の場面</p> | <p>記録を数値化しグラフにする。</p> <p>記録を数値化しグラフにする。</p> <p>ワークシートの記録を集計する。</p> |
| <p>仮説 2</p> <p>生徒相互のコミュニケーションがある鑑賞活動を工夫することにより、一人一人の考えが分かり、考えが深められるであろう。</p> | <p>感じたことを言葉にして伝え合うことができたか。</p> <p>互いの感じ方や考え方が分かったか。</p> <p>考えが深まったか</p> | <p>生徒の観察</p> <p>アンケート</p> <p>ワークシート</p> <p>相互評価</p> <p>自己評価</p> | <p>実践の過程</p> <p>実践の前後</p> <p>実践の過程</p> <p>実践の過程</p> | <p>記録を数値化しグラフにする。</p> <p>記録を数値化しグラフにする。</p> <p>記録をそのまま活用</p> <p>ワークシートの記録を集計する。</p> |

V 全体構想図



研究計画

| 月 | 研究内容 | 研究所 行事・計画 |
|----|--|---|
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの設定・検討 研究テーマ設定理由・検討 研究目標・仮説、検討 全体構想図・検討 参考文献・資料の収集 検証の方法 | 1日 第五期長期研究員 入所式 3日 オリエンテーション 7日 研究の進め方、 10日 全体構想について 15日 テーマ検討会 17日 テーマ検討会、緒方先生研究支援 20日 テーマ検討会 24日 テーマ、全体構想図検討会、 28日 平良ヒロ子校長先生研究支援 29日 全体構想図検討会 30日 乾麗子先生、嘉手苺美智恵先生先輩研究員による研究支援 31日 検証の方法 |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> 参考文献・研究資料による理論研究 参考文献・資料研究 中間報告会の資料作成 中間報告会に向けて・検討 検証授業の計画・調整・教材研究 生徒の実態把握のためのアンケート作成 | 4日 中学校新教育課程説明会（北中） 6日 理論研究について 屋嘉比正則教頭先生研究支援（砂川中） 10日 研究の進捗状況（報告） 小学校新教育課程説明会（東小） 14日 中間報告会に向けて 浅井先生講演会（1階会議室） 緒方先生研究支援 19日 中間報告会 21日 報告書作成に向けて 26日 検証授業に向けて 27日 所外研（上野小学校2年次空手指導推進校研究発表会） 28日 所外研（佐良浜中学校3年次体育スポーツ推進校研究発表会） |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態把握のためのアンケート実施 研究の進捗状況から今後の取り組みについて検討 参考文献・研究所料による理論研究 検証授業の計画・調整・教材研究 指導計画、指導案作成 | 9日 検証授業指導案検討会 17日 検証授業指導案検討会 19日 緒方先生研究支援 24日 検証授業指導案検討会 26日 御用納め |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 教材研究 検証授業の計画・調整・教材研究 検証授業の準備 検証授業の実施 生徒の変容を見るためのアンケート 検証授業の分析・まとめ・仮説検証 | 5日 御用始め 7日 検証授業指導案検討会 13日 検証授業開始 19日 検証授業指導案検討会 22日 検証授業（公開） |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 研究成果の作成 研究報告書の作成 文献資料の整理 報告書検討会への準備 報告書内容の検討 | 2日 研究成果報告会に向けて 6日 報告書検討会 13日 報告書検討会 18日 報告書検討会 20日 緒方先生研究支援 23日 報告書検討会 25日 報告書提出（印刷） |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 研究成果報告会の準備 研究報告書のまとめと反省 研究成果報告会 研究のまとめと反省 | 11日 研究成果報告会 緒方先生研究支援 25日 第5期長期研究員 修了式 |

理論研究

1 鑑賞教育についての考え方

(1) 美術教育について

美術教育は、一人一人が感じ取った美しさの感動や思いを絵やデザイン、彫刻などの形にする表現活動や造形的な美しさを感じ取る目と心を育て、芸術文化の理解を高めていく鑑賞活動を通して、自己表現力を培っていく教科である。そのため、様々な活動を通して、造形的なよさや美しさの価値を感じ取る感性やよりよいものに感動し憧れ、それを大切な価値として求め続ける豊かな情操を培っている教科でもある。また、新学習指導要領（2009 告示）の美術科目標においても、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」となっている。

これらのことから、美術教育は、美術活動における学びの中で、一人一人の感性を育て、自己表現力を高め、人間形成の確立を目指さなければならないことが分かる。「感性」を豊かにすることが、美術の教育目標であり、それを表現活動や鑑賞活動の中で培うことが「豊かな心」の育成へとつながると考える。

(2) 鑑賞教育について

鑑賞教育について、遠藤は、「他者の表現のよさや美しさを感じ取り味わったり、感情や意図と工夫などを読み取ったり、文化の違いやよさに気付き互いのよさを尊重しあったりする学習を通して自己と他者の世界について視野を広げ豊かな生き方を見いだしていく活動。」（遠藤 1999）と、述べている。また、新学習指導要領の改訂における改善の具体的事項でも、「鑑賞においては、よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取ったことや考えたことなどを自分の価値意識をもって批評し合うなどして、自分なりの意味や価値をつくりだしていくことができるように指導の充実を図る。」と述べられている。

これらのことから、鑑賞教育は、自分の感じたことや考えたことをまとめ、それらを言葉で伝えたりすることにより、よさや美しさなどの価値を感じ取り美的感性を高めることだといえる。さらに、鑑賞活動で読み取ったことを創作活動などへの自己表現に生かしたり、批評し合うことは、人間同士の理解や共感へとつながり、「豊かな心」の育成に大きな働きを持つものだと考える。

2 鑑賞についての考え方

(1) 鑑賞における基本的な考え

橋本は、「鑑賞とは、『見る』という働きに始まり、そして物に備わる美の構造的性を理解し、それを自己の精神と結びつけることにおいて、自分のものとしての概念を創造し、かつ具体化することを持って完結する一連の働きの総称である。」と述べている（橋本 1959）。

また、志賀直哉は「主我的な心持/美術鑑賞について」（1974）において、「自分が芸術作品に要求するところはそのものが如何に自分の心を震い動かしてくれるかといふ事だ。そのものの芸術的価値を客観的に判断するよりも、それを制作してある製作者の気持が直接自分の心に映ってくる事が美術作品に触れる自分の喜びなのである。」と、作品と自己との対話型鑑賞の大切さを述べている。そして、「美術鑑賞の方法は色々あるだらうが、私の経験から言ふと、総て自分の実感に頼って、それで素直に理解し、段々に進んで行くのが一番安全な正しい方法だと思ふ。」と、主体的に活動する事の重要性を述べている。そして、知識からの鑑賞は、「自信で消化されないまま・・・中略・・・空洞を残し、・・・中略・・・このやり方では自分の勘が養はれない。」とも述べており、「勘」つまり、感性が養われないといっている。

このことを、鑑賞授業に当てはめてみると、生徒自身が主体的に観て活動することで、「制作者の気持が直接自分の心に映ってくる事が美術作品に触れる自分の喜び」になり、感性が養われていくのではないと考える。そして、作品の価値に気づき、さらに作品についての情報を与える事で見方や考え方が広がり、鑑賞が深まっていくのではないかと考える。

本研究では、生徒が自分自身の目と心で作品と対話することを通して、その作品のよさや美しさ、作者の表現意図などを感じ取らせる。そのことが、生徒の主体的な鑑賞の深まりへと繋がっていくものとする。

(2) 主体的な鑑賞について

鑑賞法の基礎となる考え方として、心理学者のロジャーズのカウンセリングの基礎がある。「クライアント中心であること、つまりクライアントの中にある成長の能力を、十分に働かせることに重点がおかれている。別にカウンセラーの豊富な知識が要求されているわけではない。クライアントが発言をよく聞き、彼ら自身がどのように感じ、どのように生きつつあるかの理解に努めていけば、クライアントが解決を自ら生み出していくことが可能なのである。カウンセリングの基礎は、クライアントが自ら気づき、成長していくことの可能な雰囲気をつくり出すことにある。」(カール・ロジャーズ、1967)。これは、以下に示すようなアレナスの鑑賞者中心の芸術理解・芸術体験を目指した鑑賞法の基礎に繋がる。教師側の専門的知識の押しつけではなく、鑑賞者自身が自ら気づき、成長を目指す鑑賞法である。

アレナスの鑑賞法の基礎は受容、交流、統合の3点からなる(図1)。また、それらを成り立たせる要素として、受容のための5つの働きかけを示している(表1)。

教師は生徒一人一人が作品から感じ取った考えを認め、その考えや感じたことから鑑賞活動をスタートさせ、考えや感じたことから何らかの価値(よさ)を見つけ出し、ほめるなど温かな言葉をかけることにより、自己効力感(自分は役に立つ存在であるという実感)を育成するような支援を図らなければならない。共有の視線で接することで、鑑賞の活動の充実、心の響き合いができる。

本研究では、作品を鑑賞する活動において、生徒一人一人が主体的に感じ取ったことや考えを認め、自信を持たせることにより、自己効力感の育成を図る。そして、互いの考えを伝え合うことで互いを認め、見方や考え方が広がり、作品に対する理解が深まるのではないかと考える。

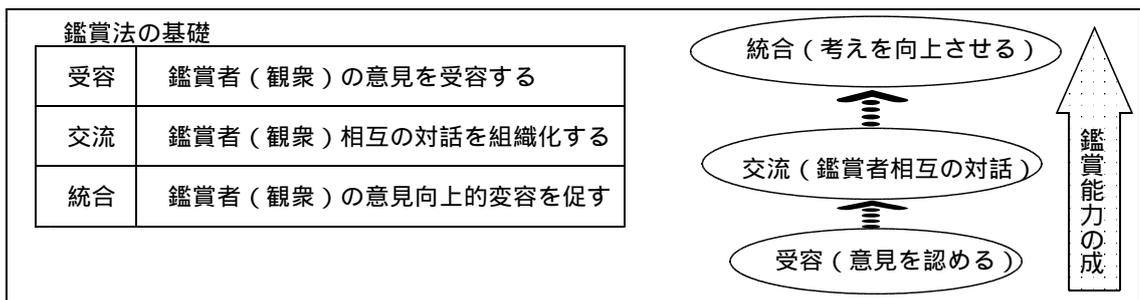


図1 アレナスによる鑑賞法

表1 アレナスによる受容のための5つの働きかけ

| | |
|-------------|---|
| 受け入れる | 何でも話せる雰囲気を作りながら、作品鑑賞への抵抗感をぬぐい去るように、鑑賞者の素直な感じ方や考え方に共感し、理解する。 |
| 鑑賞者の意見から始める | 鑑賞者の感じたことや考えを基に、作品のどこに関心を持ち、何に心を揺さぶられたのか作品そのものの意味に近づけながら、共に考える。 |
| 良さを見つける | 鑑賞者の感じたことや考えを認め尊重する姿勢を持って、対話型形態で互いのよさを見つけ合い、協力し合いながら、自己の意見・考えを見直し、深め、作品理解へと繋げる。 |
| ほめる | 他者との交流をさせながら、鑑賞者のどのような意見も最大限にほめ、作品鑑賞への自己効力感を実感させる。 |
| ともに喜びともに楽しむ | 作品についての意見を交わしていく鑑賞活動の過程において、鑑賞者の鑑賞への深まりを共に考え、楽しみ、歩むという心の響き合いを大切にす。 |

(3) 鑑賞能力の発達段階と鑑賞教育

鑑賞で育つ力として、「観察力と判断力」「それを考えまとめる力」「そしてその考えを言葉を駆使して表す力」「さらに対話を通しての多様な価値観の認知」などが、あげられる。また、マサチューセッツ美術大学アビゲイル・ハウゼン、ニューヨーク近代美術館共同研究による「鑑賞能力の発達段階」の理論を5段階で示している。(岡本 2003)(表2)

表2 鑑賞能力の発達段階

| | |
|--------------|---|
| 第一段階「物語の段階」 | 作品をじっくり見ようとせず、自分の記憶や経験への連想が飛躍するという特徴をもっています。作品のモチ・フから全く別の連想を始めるなど、その思考は作品の中にとどまることがありません。美術鑑賞の経験のない者は年齢にかかわらず、全てこの段階に属することになります。この段階の指導方法としては、まず「物語を語らせ」て、その発言の意図を指導側が肯定的に認めつつ、より普遍的な言葉に導いていくことが大切です。 |
| 第二段階「構築の段階」 | 作品に接する機会が増えるにしたがって、鑑賞者は美術に関する知識や情報を自主的に欲するようになります。また、作品をよく観察することを心がけるようになります。この段階の指導方法としては、鑑賞者は単に知識を増やしたいだけでなく、自分で学ぶための方法も欲しているわけなので、そのための施設や資料が必要です。 |
| 第三段階「分類の段階」 | 鑑賞体験とともに知識が増えるにしたがって、美術史上の分類を重視するようになります。作品そのものを見るよりも、それにまつわる情報を得たり語ったりすることに満足感を覚えるといった特徴があります。第三段階以上の能力は、専門的な教育を受けることではじめて獲得されるものです。 |
| 第四段階「解釈の段階」 | 美術史、技法などのあらゆる知識を踏まえた上で、自分の感覚を加えて解釈を行うことが可能となります。 |
| 第五段階「再創造の段階」 | 美術について熟知しており、創造者であるアーティストという存在に最大の敬意を払う人々がこれにあたり、作品と対話するかのような深い思索ができるようになります。 |

この理論に沿って、それぞれの鑑賞者の鑑賞能力の発達段階をとらえ、それぞれにふさわしい指導方法を行うことで、鑑賞活動の充実が図られるのではないかと考える。

本研究では、研究対象である一学年の発達段階を、第一段階「物語の段階」と捉え実践することとした。作品から素直に物語をイメージし語らせる、それらを肯定的に認めることで、自分の感じ取ったことに自信を持たせ、作品を鑑賞する楽しさを味わわせたい。

(4) 感性についての考え方

中学校美術科で育成する感性を、新学習指導要領解説美術編では「感性とは、様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力であり、知性と一体化して人間性や創造性の根幹をなす物である。(中略)創造活動において、対象をとらえたり判断やイメージをしたりする物である。」と述べている。また、現代生活において、柔軟で心豊かにたくましく生きていく視点からも感性の育成が重視されており、その意味からも美術における感性の育成は大きな意味を持っているといえる。

遠藤によると、「感性も五感の違いと同様に、どのような価値を感じるかによって次の『六つの態様』に分けられる」(表3)と述べている。また、「感性は、生まれながらに十分に備わっているものでなく、遊びや自然観察、芸術的感受・創造活動、絵本、人間関係などの豊かな経験や教育を通じた感受刺激の開発と共感的理解・称揚により豊かになり豊かに育成されていく。」と述べており、感性を豊かにするためには、環境、学習・教育の中で、考え、経験することが大切であることが分かる。

美術教育においても、遠藤は、「感性や知は資質は生来的に持っているが豊かに育つ教育や環境・機会が用意されなければ育たない。」と述べている。この感性を豊かにするための五つの要件として、「観る力と気づきを育てる」「心の感受を深める」「理解を育てる」「表現力を育てる」「共感する力を育てる」をあげている（表4）（遠藤 2007）。

鑑賞活動に、生徒が対象や物事対にして主体的に活動し、観て、自己の創造力を働かせてそのものの価値や心情を感じ取ることで、理解を深めることや自分以外の者の感じたことに共感する力が育成される。この五つの要件を盛り込んだ研究を深めることで、生徒一人一人の感性が豊かになるのではないかと考える。

表3 感性の六つの態様

| | |
|-------|---|
| 生命的感性 | 生命感、生きる姿・努力の美しさ、生のいとおしさや慈しみ、悠久の命等を感じる感性 |
| 美的感性 | 自然や芸術などのよさや美しさ、情趣、美しい立ち振舞いなど美の価値を感じ取る感性 |
| 知的感性 | 知的好奇心・追求心、知の気づき・理解、審美・不思議を感じ取る感性、知の直感 |
| 心情的感性 | 愛情・喜び・哀しみなど人の気持ちや心を感じ取り共感し優しさを行為化する感性、情操 |
| 社会的感性 | 人間関係や社会に生きる人間としての調和感覚・他者に対する心遣いや配慮など集団や社会の中で自分と他者とのよりよい関わりや調和を感じる取る道徳的・論理的感性、不満耐性 |
| 創造的感性 | 新しいことや本質的なことに気づき発見したり夢を持ったり、創造力を働かせてアイデアやおもしろいこと・楽しい工夫などを思いつき新たなものや価値を作り出そうとする感性 |

表4 感性を豊かにするための五つの要件

| | |
|---------------|---|
| 1 観る力と気づきを育てる | 好奇心、ものやことを見て気づく力、感じる力、感動などの涵養 |
| 2 心の感受を深める | 気づきや創造力を深める心で価値や心情などを感じ取れるようにする（自然や芸術美の味わいと創造力、親や教師による感受の資質を深めさせる会話や問いかけ、読書・読み聞かせ等心の深化） |
| 3 理解を育てる | 理解を深めることで感受が一層深くなる。深く考えることで感じる。人の心の理解 |
| 4 表現力を育てる | 感じたことは何か どのように表現したいのか どうしたらそのように表せるか、 の問いかけと豊かな表現力の育成への具体の指導をし、成果を誉め奨励する |
| 5 共感する力を育てる | 他者の感じたことに共感する力（他者の感じたことから触発され自分も同様に感じる力と他者の感じたことが分かる心情的感性が育つ） |

3 コミュニケーションについての考え方

(1) コミュニケーションについて

コミュニケーションとは、「英語でCommunication。社会生活を営む人間に行われる知覚・感情・思考の伝達。言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする。」（岩波書店 広辞苑 1983）「身振り、言葉などによって互いにある意味内容を交換、伝達すること」（小学館 現代国語例解辞典 2005）のことである。感情を互いに理解し合い、意味を互いに理解し合う、共有する心の活動であると考えられる。

美術の鑑賞活動において、作品をじっくりと観る活動は作品と鑑賞者（ここでは生徒）間における一つのコミュニケーションの形態であると考えられる。また、鑑賞者相互のコミュニケーションを取り入れることは、互いの考えを伝え合いながら、作品に対する見方や考え方の広がりや作品理解をより深めることになると考える。さらに、鑑賞者と指導者とのコミュニケーションにおいては、考えを認め、理解し、共感しながら、鑑賞活動を楽しさを味わわせられるので

はないかと考える。

(2) 対話が及ぼす人間形成

上野は、対話が及ぼす人間形成について、「対話を通してお互いの考えを知り、それぞれの独自性や良さを認め合う経験を積み重ねることは、他者の立場になって考えたり、共感することのできる資質や能力の形成に役立つだろう。教育とは、知的な何かを身につけたり、技術を高めることだけを意図するものではない。学びの活動を通して自分の存在を確かめたり、『自己効力感を高めたり、また他者の価値を認めたりする人間的な充実や成長をもくろむものである。』（社会学者アルバート・バンデュラ）」(上野監修 2001)と述べており、鑑賞活動においても、グループで互いの考えを伝え合う対話を実践させることにより、友だち同士の共感する心や自分が人に認められていると感じる自己存在感や自信につなげることができるのではないかと考える。それらは、作品の見方や感じ方を広げ、作品理解を深め、鑑賞活動の楽しさを味わわせることになるのではないかと考える。

(3) 言語活動との関わり

「国語科だけでなく各教科において、レポートの作成や推敲、論述、発表・討論といった当該教科などの知識・技能を活用する言語を充実させること。」と中央教育審議会答申(2008, 1)にもあり、自分の考えをまとめ、相手に分かるように伝える言語教育の重要性を示している。美術教育の鑑賞の分野でも、言葉で考えさせ、言葉に整理することは重要である。作品を鑑賞する際、ただぼんやりと見ていて感じ取れなかったことが、言葉にすることで、見る視点ができ、感じ取る力が深まっていくのではないかと思うからである。これらは、物事をじっくり見る姿勢や豊かな感受性を育み、言葉にすることで、言葉による作品から感じ取ったことの自己表現力が豊かになるのではないかと思う。また、友だちなどと伝え合う活動を取り入れることで、自分と同じ、または違った考え方に接することで、伝える喜びが味わえ、感じ方や視野の広がり、作品への見方の深まりができていく。このことが、生徒一人一人の感性や心情の豊かさにつながっていくと考えられ、その意味で、鑑賞活動は、言語活動と深く関わっていると考える。

本研究においても、これらの点を重視し、作品鑑賞から感じ取った考えを自分の言葉でまとめたり、伝え合う活動を盛り込むことで、研究テーマである主体的な鑑賞活動が実践できるのではないかと考える。

4 具体的な鑑賞方法についての考え方

(1) 対話型鑑賞法について

対話型鑑賞法は、アメリカのアレナスが考案した鑑賞者(生徒)が作品について主体的に働きかける美術館における美術作品鑑賞の方法である。これは、作品と鑑賞者、鑑賞者と教師、鑑賞者間などにおける対話を深めることで、作品鑑賞を深めていくコミュニケーションを重視した実践方法である。

アレナスの対話型鑑賞法では、まず、鑑賞者に

「この作品について話してください。これはなんでしょう？いったい何が起きているの？」

「なにをみてそう思ったの？」

と、単純な質問を投げかけることから始めている。

アレナスは、質問のポイントを「生徒の視覚的技能の鋭敏化を目的とした物もあります。それは、明確な答えへと導く説明的な質問です。そのほかには、洞察を促すことを意図した解釈的な質問です。生徒たちに、できるだけ自由に考えさせてください。なんと云ってもこれらの

質問には、たったひとつの正解はないのですから。というものの、よい答えにはいつも精緻な視覚的観察に基づいていることを、生徒たちに気づかせてください。」と述べている。

学校においては、鑑賞を導く教師が、生徒たちに質問しながら、作品から感じ取ったことを語らせ、作品からのメッセージを生徒が主体的に考えてまとめさせていく活動である。これまでの作品に関する知識中心の鑑賞活動ではなく、生徒自身に作品をじっくり「観させる」活動を中心に据え、作品から感じ取ったことを考え、まとめ、語らせる方法である。これにより、生徒の主体性や感性を育むことができると考える。よい答えを導くためには、鑑賞者自身の作品への深い観察力がなければならない。これをアレナスは、「精緻な視覚的観察」と呼んでいる。作品を深く観察させるためにも、まず、生徒が抵抗なく鑑賞活動が進められるように、物語性のある作品を取り上げ、作品からのいろいろなイメージを連想して想像できるようにしていきたい。生徒一人一人が、興味を持って作品を鑑賞する中で、教師は、生徒自身の考えを認め（受容）、褒めることで自己の考えに自信を持たせるようにしていくことも大切であると考え。

本研究では、この対話型鑑賞法を授業場面で実践し、生徒自身がじっくりと作品を観る鑑賞活動に取り組ませることで、主体性を育みたい。また、作品からのメッセージを感じ取らせるために、物語性のある作品を取り上げ、作品からいろいろなイメージを想像できるようにしたい。これらのことにより、生徒一人一人が作品からのよさや美しさを感じ取れるようになっていくと考える。

(2) 比較に基づく鑑賞の考え方

美術作品の鑑賞においては、同じ作品を鑑賞しても一人一人によって、感想がさまざまである。これは、一人一人の感じ方の違いによるものである。アメリカのE・B・フェルドマンは、鑑賞の学習の仕方を、記述、分析、解釈、評価というように、四つの段階を経ながら探的に展開する批評学習を提案している（表5）。

表5 鑑賞の四つの段階

| |
|-------------------------------|
| 「記述（作品の中に見えるものを口答で詳しく列挙していく）」 |
| 「分析（形や構図を中心に、あらためて詳しく見ていく）」 |
| 「解釈（作者の主張や自分なりの印象を述べる）」 |
| 「評価（良い・悪い・好き・嫌いなどを述べる）」 |

栗山は、その理論に基づき、比較に基づく鑑賞を実践している。（図2）ここに挙げた事例その他にも、ピカソの「泣く女」とゴッホの「タンギー爺さんの肖像」の比較鑑賞を実践している。いずれの例でも、「生徒は素材や色彩や形などの違い、表現方法の相違点や共通点を積極的に取り上げ、作者の意図や背景に鋭く迫っていた。」「全員が積極的に参加できる雰囲気と場を与えたことで、他者の意見からお互いに学び合う共感的なコミュニケーションの状況が生み出した。」などの効果を見出している。これらのことから、鑑賞活動において、複数の作品を用いて、複数の観点からじっくりと考えさせることで作品の核心に迫ることができるのではないかと考える。「比較」という方法は、生徒に作品をよく観させるためには、有効な方法であり、生徒相互の考えを伝い合わせることで、互いの考えを認め、作品の見方、考え方の広がりを見出せるのではないかと考える。そして、「個々の作品の特徴や作家の独創性をより具体的に際だたせる物として、可能性を発揮する鑑賞法といえる。」（栗山 2003）となり、より作品理解が深まり、鑑賞の楽しさを味わわせられるのではないかと考える。

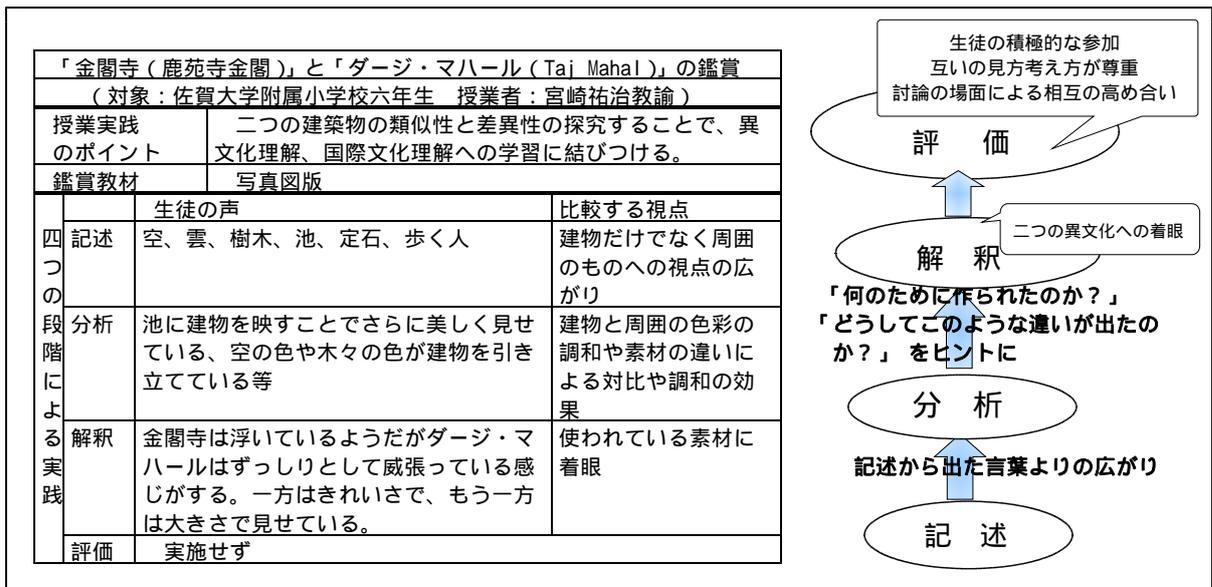


図2 比較に基づく鑑賞事例 1 (「美術鑑賞宣言」栗山裕至 2003)

田中の比較に基づく鑑賞の実践例(表6)では、比較鑑賞する作品を相違点を見つけやすくするために似たモチーフを選択している。また、予め比較する観点を提示し「生徒がこれに沿って比較することにより、作品の相違点を見つけ出し、一つの作品からだけでははっきり持てなかった自分の感じ方を明確」(田中 2003)にさせ、鑑賞会を設定することで、「語り合いが作品に対して思いを膨らませるために有効」であると述べている。このような比較鑑賞で、生徒の「自分の美的な感性に基づいて自由な鑑賞、自分なりの解釈ができる」学習する姿勢が身につく、「作品から作者への興味が湧き、作者の時代背景や心情への関心が広がり、より鑑賞学習が深まっていく。」と述べている。

表6 比較に基づく鑑賞事例 2 (「美術鑑賞宣言」田中好文 2003)

| | |
|---------------|--|
| 比較鑑賞作品 | 「漣」福田平八郎、「SUNBATHER 1966」ディビッド・ホックニー |
| 授業展開 (1時間) | 作品観察...描かれているモチーフについて考察する |
| | 観点に沿って観察比較する...観点(季節は何だろう、一日の中で何時頃の光景だろう、相違点は何だろう、水の様子から受ける印象はどうだろう) |
| | 観点に沿って意見交換(鑑賞会) |
| | 私の記憶の中の水面、漣を線描する |

これらの比較に基づく鑑賞の方法を応用し、本研究のテーマである互いの考えや見方を伝え合うコミュニケーション活動を実践することで、作品への見方や考え方が広がっていくと考えた。生徒の興味・関心を高めさせるために、効果的な鑑賞作品を選び、色や形、構成などの作品を表現している事柄に視点を向けさせ、感じ取ったことを自由に語らせることにより、主体的に鑑賞に取り組みせられるのではないかと考える。そして、生徒同士で語り合わせるにより、作品に対する考え方や見方が広がり、他者理解や作品理解へと繋げるコミュニケーションが深まるのではないかと考える。

上記の二つの事例を基に本研究では、比較鑑賞の方法を4つの段階で実践検証することにした(図3)。

第1段階...比較鑑賞する作品を精選し、生徒の興味・関心を高める。

第2段階...作品を比較鑑賞しながら、よさや美しさを発見させ、じっくり観る活動を促す。

第3段階...グループ活動において、互いの考えを伝え合い、認め合い、深め合わせるにより、鑑賞を深める。作品の理解を図る。

第4段階...ワークシートをまとめ、自己評価・相対評価をする。

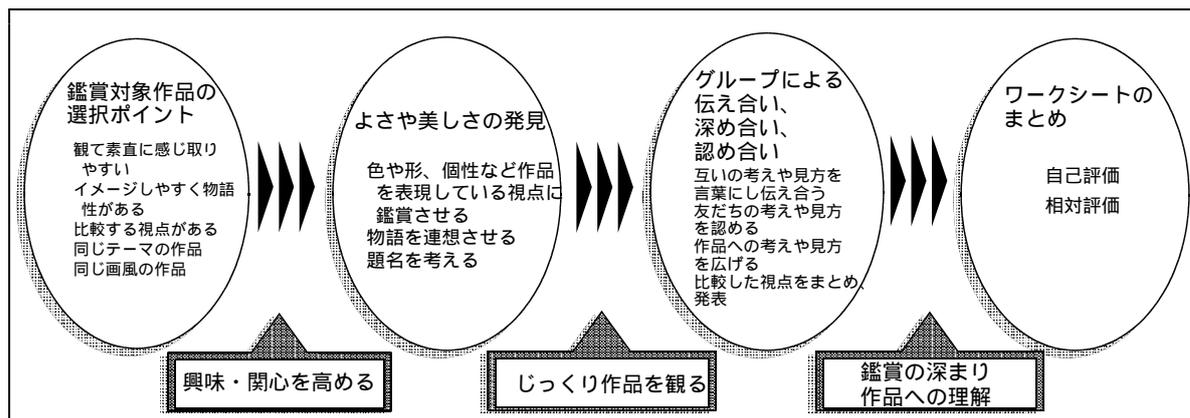


図3 本研究の実践例

(3) 鑑賞する作品の選択方法

新中学校学習指導要領解説美術編では、鑑賞する対象の選択について、「生徒の興味・関心、発達段階などに応じて指導のねらいを明確にしながらか適切に教材を選ぶことが大切である。その際、作品を網羅的に取り上げるのではなく、生徒の主体的な鑑賞を促すためにあらかじめ選定した題材の範囲の中で、生徒の興味・関心に合わせて鑑賞作品を選択させたり、同じテーマで表現した複数の作品を比較させたりするなどして、より深く鑑賞させることが必要である。」と述べられている。

本研究においても、上記の点を基に、指導内容に適した鑑賞作品を精選した。対話型鑑賞や比較に基づく鑑賞を深めるために、生徒が表現方法や意図など、様々な作品からのメッセージをじっくりと読み取り、鑑賞しやすい物語性のある作品と、比較する視点を持たせやすいように同じテーマによる作品や構想画を用意することにした。また、実際に鑑賞する作品には、実物に近い拡大版と縮小版を用意し、作品を全体的に観る活動やじっくりと細かい点まで観る活動ができるように工夫を図った。

(4) 鑑賞環境づくり

新中学校学習指導要領によると、「4 生徒が随時鑑賞に親しむことができるよう、校内の適当な場所に鑑賞作品などを展示するとともに、生徒や学校の実態に応じて、学校図書館等における鑑賞用図書、映像資料などの活用を図るものとする。」とあり、鑑賞が授業としての学習だけでなく、日頃の学校生活の中で、親しめるようにすることが大事だと述べている。

日常的に生徒作品や美術作品に親しむことで、校内環境の装飾をきれいにしようとする姿勢や美術作品への関心が養われるようにしたり、感性や情操が育まれるように工夫をすることが大事だと考える。また、授業における表現活動への意欲付けにつながるような配慮も必要だと思う。美術室を始め、日常的に触れられるよう校内の適切な場所に展示したり、生徒の興味・関心を引くような展示の仕方を図ることも必要である。また、生徒の作品を地域の施設などを活用し展示をすることで、学校外の交流も図られるのではないかと考える。

展示に際しては、生徒の活動も取り入れた計画をし、生徒の美術に対する自主性や意欲、装飾への美的感覚や活動への責任感も培われるのではないかと考える。

(5) 鑑賞の評価についての考え方

評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(中学校)(教育課程研究センター2001,2)において、美術の評価の観点及びその趣旨は、関心・意欲・態度、発想や構想の能力、

創造的な技能、鑑賞の能力の四つの観点からなる。(表7, 8) 評価規準については、美術科の内容のまとめりと共に設定されており、具体例は、研究対象の1学年の鑑賞の活動の評価基準である。(表9-1, 9-2)

このように、美術の学習活動は、評価の観点や規準を基に観点別評価をしていくものである。

表7 評価の観点及び趣旨(教育課程研究センター 2001による)

| 関心・意欲・態度 | 発想や構想の能力 | 創造的な技能 | 鑑賞の能力 |
|---|--|--|--|
| 主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする。 | 感性や創造力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。 | 表現の技法を身に付け造形感覚や感性などを働かせ、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。 | 美術作品や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じ取り味わったり、理解したりする。 |

表8 学年別の評価の観点及び趣旨(教育課程研究センター 2001による)

| 観点 \ 学年 | 第1学年 | 第2学年及び第3学年 |
|--------------|--|---|
| 美術への関心・意欲・態度 | 自然や身近なもの、美術作品のよさや美しさに対する関心をもち、意欲的に美術の基礎的能力を身に付けようとし、それを生かし楽しく表現や鑑賞の創造活動に取り組み、美術を愛好していこうとする。 | 自然や身近なもの、美術作品のよさや美しさ、美術文化や文化遺産などに対する関心を高め、自分のよさを生かして表現や鑑賞の創造活動に主体的に取り組み、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。 |
| 発想や構想の能力 | 感性や想像力を働かせて、自然や身近なものを観察しよさや美しさなどを感じ取り考えたり、用途や機能を考えたりして、豊かに発想し構想する能力を身に付け、形や色の構成などを工夫し、自分らしく心豊かに表現の構想をする。 | 感性や想像力を働かせて、対象やものごとを深く見つめよさや美しさなどを感じ取り考えたり、用途や機能を考えたりして、独創的で豊かな発想をし、心豊かで創造活動な表現の構想をする。 |
| 創造的な技能 | スケッチ、形体や色彩の表し方など美術の基礎的技能を身に付け、造形感覚や感性、想像力などを働かせ、表現意図に合う多様な表現方法を創意工夫し、美しく表す。 | 感じ取ったことや心の世界などをスケッチに表し、想像力や創造的な技法などを働かせ、表現意図に合う新たな表現方法の研究をするなどして創意工夫し、創造的に表す。 |
| 鑑賞の能力 | 自然、美術作品や生活の中の造形などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活の中の美術の働きなどについて理解や見方を広げたりする。 | 自然、美術作品や生活の中の造形、美術文化や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、想像力の豊かさなどを感取り味わったり、理解や見方を深めたりする。 |

表9-1 B鑑賞の活動の評価規準(教育課程研究センター 2001による)

| 美術への関心・意欲・態度 | 鑑賞の能力 |
|--|---|
| 自然、美術作品や生活の中の造形などの鑑賞に親しみ、意欲的によさや美しさなどを味わったり作品などに対する理解や見方広げたりし、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする | 感性や想像力を働かせて、作者の心情や意図と表現の工夫多様な表現のよさや美しさなどを感取り味わい、美術作品や生活の中の造形などについて見方を広げたり、生活における美術の働きなどについて理解したりする。 |

表9-2 B鑑賞の活動の評価規準の具体例 (教育課程研究センター 2001による)

| 美術への関心・意欲・態度 | 鑑賞の能力 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞することを楽しんでいる。 ・自然、美術作品や児童生徒の表現に親しみ、そのよさや美しさ、鑑賞の喜びなどを味わおうとする。 ・生活の中のデザインや伝統的な工芸などに親しみ、そのよさや美しさなどを味わおうとする。 ・美術作品や生活の中の造形などに対する見方広げ、様々な作品などを意欲的に鑑賞し、美術を愛好していこうとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせて、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図と表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取る。 ・いろいろな見方や感じ方や発想の仕方、知識等を学び取り、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わう。 ・生活の中に美術が様々に用いられていることや美と機能性とのかわりに気づき、その働きについて理解する。 |

また、題材による生徒の自己評価や作品、レポート、ワークシート、テストなど多様な評価対象により、評価する工夫も必要である。生徒のよさや取り組みへの意欲・態度、生徒の変容や成長などを指導の過程で励まし、アドバイスをする。評価にくみ取り、生徒の学びや授業の展開を補正するなどの工夫も大切である。

鑑賞における「感性」や「豊かな情操」を評価するのは、目に見えない生徒自身の心の中で養われる部分なので容易ではない。美術の学習においては、この部分を生徒自身の自己評価やワークシート、生徒自身の声などから見取る必要がある。

この鑑賞の評価について、以下のような方法がある(図4)。

評価のポイント

- 生徒たちは鑑賞を楽しんでいるか。
- 生徒なりの感じ方、考え方を尊重しているか。
- 一般的な解釈に惑わされないようにしているか。
- 仲間との交流をしているか。
- 先生の客観性のある主観を大切にしているか。

評価の進め方

観察から...生徒たちの表情、視線、鑑賞の対象に向かう姿勢などをよく観察して、生徒たち一人一人が対象を味わっているか、対象の魅力を感じることができたかを評価する。
 評価項目:「鑑賞の対象への興味・関心の高さ」、「自ら進んで鑑賞しようとする態度」、「鑑賞の活動を楽しんでいるか」

発言とつぶやきから...鑑賞からの学びを仲間との交流活動における発言とつぶやきに表れるので、よく観察し評価する。
 (普段余りしゃべらない生徒へは、必要に応じて個別に対応すると良い。)
 評価項目:「仲間との交流を通じて、感じたこと、考えたことを広めようとしているか、深めようとしているか」

記録から...生徒たちが自分の学んだことについて書いた記録からも評価する。
 (観察からの評価や発言やつぶやきからの評価の内容を確認、振り返りに活用)

生徒たちが鑑賞の活動を心から楽しんでいるかを見極め、鑑賞することが好きになることができたかを把握することが大切である。

図4 (「ひらけゴマ 鑑賞のとびら」TEAM'S、山田一文編集)

この評価方法はいわば、鑑賞活動における生徒の主体的な面の活動を重視した評価であるといえる。ここでは、生徒がいかに楽しんでいるか、対象に向き合っているか、仲間と交流しているか、作品から何を感じ取り、考えたかを肯定的に評価し、これらの観察した評価や生徒の声を基本に、ワークシートなどの記録を参考に総合的に評価していくことが示されている。

鑑賞を評価するという事は、生徒の心で感じ取った目に見えない部分を客観的に評価することを求められていることから、大変困難な内容を含むものとする。

可能な限り客観的に評価を行うためには、以下の5つの観点が必要不可欠であるとする。

1 学びの姿勢や生徒の声からの観察

- 2 指導要録に示されている評価規準に沿った授業目標からの評価
- 3 生徒の自己評価
- 4 宿題や課題などのまとめ
- 5 対話型鑑賞の方法的な期末テストの出題

これらの評価を収集し、総合的に評価することによって、鑑賞という目に見えないものに対する客観的評価が可能になると考えられる。

遠藤は、評価するにあつての指導者の責務について、「教育のねらいは学習指導要領に示されている各内容を確実に身に付けさせ、課題解決能力や思考力・判断力、表現力などを十分に育つように生徒一人一人の個性や能力に応じてきめ細やかな指導をすることが責務である」と述べている。そして、「評価は、生徒の学びの結果、目標・内容がどの程度身についているかを検証すること。」(遠藤 2004)とも述べている。ここでいう生徒の学びは、生徒自身の目標の課題解決に向けた意欲的な態度や学んだ知識や技法、表現方法を身に付けようとしているか、創意工夫しながら自己を高めていこうとしているか等を指している。

このように学習における評価においては、指導者側の指導的な側面のみならず、生徒がいかに学んだかという観点もまた大切にしなければならない。そのため生徒にとっての評価の意味を遠藤は、「自己の学びの目標とその成果を客観的に理解する。 自己の能力などを総合的に知る。(自己理解) 学ぶことの有効感を実感する。 更なる学びの目標(課題)を持つ。」と述べている。

本研究においては、自己評価・相対評価において、1) 頑張ったこと、2) 分かったこと、できたこと、また、3) 認められたこと、4) 今度学びたいこと等生徒自身の学びの結果について、特に4つの観点を踏まえて評価することにした。



仮説検証のための授業実践

1 検証授業指導案

- ・実施：平成21年1月 29日(木) 6校時
- ・対象：宮古島市立北中学校 1年 2組 男子20名、女子16名 計36名
- ・指導者：友利 尚子

2 題材名：鑑賞「美術作品に込められたメッセージを読み取ろう」

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、平成20年9月に公示された新学習指導要領の中学校美術における、B鑑賞(1)A「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作者などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方考え方や感じ方を広げること。」に関連したものである。

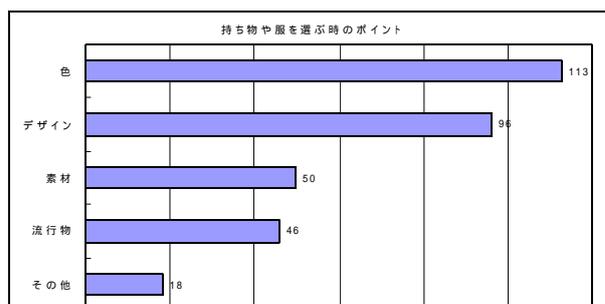
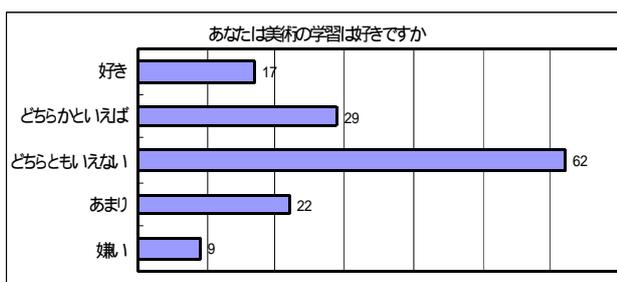
鑑賞とは、感性や想像力を働かせて、自然の造形の美しさや人類のみが成しうる「美の創造」の素晴らしさを感じ取り、自らの人生や生活を潤し心豊かにしていく主体的な活動である。鑑賞は、作品と対話を重ねながらそのもののよさや美しさ、作者の創造力の豊かさを理解することによって、多くのことを感受し学び取るための資質や能力を育成していくものである。さらに、鑑賞は、表現活動のための補助的なものだけでなく、それ自体が一つの独立した学習である。

中学生の時期は、自我が芽生え、いろいろな事象に目や心が向く多感な時期である。この時期に、生徒一人一人の美的感覚を高めるような鑑賞活動を体験させることは、感性や想像力を高め、情操を豊かにすることになる。小学校では、親しみのある作品からよさや美しさを感じ取らせることが目標になっており、友だちの作品や美術作品を鑑賞してきている。中学校の鑑賞活動では、鑑賞の対象を広げながら、基礎的な鑑賞の仕方を身に付けさせ、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の工夫などを読み取らせることが目標になっている。本題材では、作品に込められたメッセージを読み取らせ、鑑賞の楽しさを味わわせるためにも、まず、美術作品をどのように観ていくのかという鑑賞の仕方を身に付けさせることが必要である。

美術作品における鑑賞活動は実物を用いた方がより生徒が直接的に取り組むことができるのであるが、実際的には無理である。今回は、掲示用に実物に近い大きさの作品と、生徒がじっくり鑑賞できるように複数の縮小版を用意した。また、生徒が興味を持って鑑賞活動を進められるように、物語性のある作品を取り上げた。

(2) 生徒観

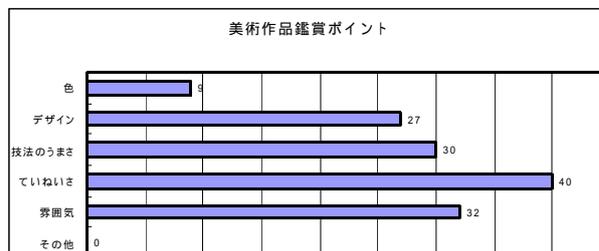
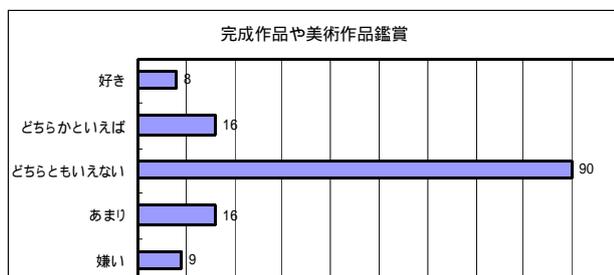
12月に美術に関する意識調査を行った。



「美術が好きですか」の質問では、否定的な意見が2.5割、どちらともいえないが4割、肯定

的な意見が全体の3割とやや物足りない結果である。

しかし、「服や持ち物など身の回りの物を選ぶポイントはなんですか」の質問項目では、色やデザインなどに視点を置く生徒が多く、一人一人が主体的に自己の美的感覚の要素を生かし選んでいることが分かる。この質問から、生徒たちが生活の中で美術的な要素と関わっている実態が把握できる。



「鑑賞が好きですか」の質問では、肯定的な意見、否定的な意見とも少なく、「どちらともいえない」と答えている生徒の割合が6割以上を占めており、鑑賞への関心の低さが課題である。鑑賞するときの視点は、ていねいさ、雰囲気、技法のうまさ、デザインと答えた生徒が多く、技法習得の方へ視点が向いている。

このような鑑賞への関心の低さ、作品理解までできていない鑑賞の実態を改善し、生徒の美的感覚や美術への関心を高めるためにも、鑑賞活動の工夫をしていくことが課題である。

(3) 指導観

今回の鑑賞の授業において、主体的に鑑賞する態度の育成をするために、作品に関する知識中心型の鑑賞でなく、まず、対話型鑑賞法による生徒自身の素直な目と心で「観る」ことからスタートする。次に、基本的な鑑賞の仕方を身に付けさせるために、形や色、材料、表現方法や表現意図など作品のあらゆる視点に目や心を向けさせることにより、題材や制作者、何が描かれているのかなどの質問に対する答えを主体的に見つけ出させる。そのために、教材には、物語性のある作品を取り上げる。「これは何だろう？」と作品に語りかけながら、じっくりと観させ、自分の感じ取ったことを自己の内面から導き出していく主体的な鑑賞活動を展開していきたい。

また、作品への見方や考え方を広げさせるために、グループ鑑賞活動に取り組みせ、互いの考えや思いを言葉で伝え合わせる。さらに作品の比較鑑賞をさせることで、さまざまな表現方法や表現意図の違いに気づき、作者や国などへ興味関心を高め、美術作品への鑑賞を深めていけるのではないかと考える。そうすることにより、生徒一人一人の感性を豊かにし、美術を愛好する心情を培うことにつながると思う。

4 題材目標

- (1) 楽しく鑑賞活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。(関心・意欲・態度)
- (2) 美術作品についての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。(鑑賞の能力)

5 指導計画・検証計画（3時間扱い）

| | 学習内容 | 指導目標 | 仮説の検証 |
|---------------------------|--|---|-------|
| 第一時 | 作品からのメッセージを読み取ろう。 | | |
| | 提示された美術作品を鑑賞し、何が表現されているのか、どのような物語が隠されているのかを見つけ文章で表す。 | 感想を書かせることにより、主体的に鑑賞させる。 | |
| | 色や形などの構成に視点を置き、作品をじっくり観ながら、どのような物語があるのか、題名やどんな人が描いたのかなど、自分の考えを言葉にまとめる。作品のなにを観てそう感じたのか、どうしてそう思うのかについても鑑賞を深める。 | 作品への対話を深めさせ、さまざまな表現方法から作品のよさや美しさ、メッセージに気づかせる。 仮説1 作品のよさや美しさが発見できたか。 | |
| 作品鑑賞を振り返り、鑑賞の仕方や感想をまとめる。 | 感想をまとめることにより、鑑賞の仕方を確認させ鑑賞する楽しさを味わわせる。 仮説1 興味・関心を持ち作品を鑑賞しているか。 | | |
| 第二時 | グループで作品から物語を考えよう。 | | |
| | 作品をじっくり観て、色や形、造形的なよさや美しさから、疑問や感動どのような題名なのか、誰が制作したのか、物語があるのかなど感じ取ったいろいろな自分の考えを言葉にまとめる。 | 事前に学習した鑑賞の仕方をさせる。 仮説1 作品のよさや美しさが発見できたか。 | |
| | 互いの考えを伝え合い、質問したりしながら、グループとしての考えをまとめる。 | 互いの考えを伝え合うことより、作品に対する見方や感じ方を広げ、作品の理解を深める。 仮説2 感じたことを言葉にして伝え合うことができたか。 互いの感じ方や考え方に気づいたか。 | |
| グループ鑑賞活動における自己評価と感想をまとめる。 | グループ活動により、見方や感じ方を広げ、鑑賞する楽しさを味わわせる。 仮説2 考えが深まったか。 | | |
| 第三時 (本時) | 二つの作品を比較し、物語を語りながら、違いを考えよう。 | | |
| | 二つの作品を比較鑑賞し、色や形の構成など表現方法の違いに視点を向け制作者や題名、物語などをイメージしながら、自分の考えをまとめる | 二つの作品を比較鑑賞することにより、基礎的な見方や理解を広げる。 仮説1 作品のよさや美しさが発見できたか。 | |
| | 比較鑑賞したことをグループでまとめる。 | 比較鑑賞したことをグループで話し合うことで、表現方法の違いや作品からのメッセージに気づかせ、作品への理解を深める。 仮説2 感じたことを言葉にして伝え合うことができたか。 互いの感じ方や考え方に気づいたか。 | |
| 二つの作品鑑賞によるグループ学習の感想をまとめる。 | 比較鑑賞により、作品のさまざまな価値に気づかせ美術を愛好する心情を培う。 仮説2 考えが深まったか。 | | |

6 本時の学習 (3 / 3)

(1) 本時の目標

- ・二つの作品を比較鑑賞させ、それぞれの色や形の構成など表現方法の違いに視点を向けさせることにより、作品の見方を広げる。
- ・作品に対する互いの考えを伝え合うことで、多様な価値に気づかせ、主体的に鑑賞する楽しさや美術を愛好する心情を培う。

(2) 本時の指導に当たって

本授業においては、同じ題材による表現方法の異なる作品、現代と古典、西洋と東洋などを比較することで、色や形の構成方法、どんな人が制作したのか、何を物語っているのかなどのさまざまな「観る」視点が広がり、鑑賞が深められると考える。また、鑑賞する作品を選択させることにより、生徒の意欲が高められると考える。

(3) 本時の評価規準 (B の規準・・・満足できる)

| 関心・意欲・態度 | 鑑賞の能力 |
|--|---|
| <p>鑑賞を楽しんでいる。</p> <p>二つの作品の多様な表現に興味・関心を持ち、比較しながら、題名などをイメージしたり、意欲的にそれぞれのよさや美しさを味わおうとしている。</p> <p>Cの手立て</p> <p>色彩や形などに目を向けさせることにより、主体的に鑑賞しようとする意欲を持たせる。</p> | <p>二つの作品鑑賞より、感性や想像力を働かせて、作品を構成している色や形などに視点を置き、自分の見方や感じ方でそれぞれの表現の工夫や作者の心情、意図よさや美しさなどを感じ取り、題名や作者をイメージすることができる。</p> <p>Cの手立て</p> <p>それぞれの作品を構成している色や形などを比較させることで、鑑賞の視点を持たせる。</p> <p>グループ鑑賞活動を通して、発想の仕方、作品からの知識等を学び取り、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わうことができる。</p> <p>Cの手立て</p> <p>自分の考えと友だちの考えを比較させ、その違いに気づかせる。</p> |

上記Bの規準を基に、A・・・十分満足、C・・・努力を要するの観点から評価する。

(4) 授業仮説の検証の視点と方法

| | 検証の視点 | 場面と評価 |
|-----|---|---|
| 検証1 | 興味・関心を持ち作品を鑑賞しているか。 作品のよさや美しさが発見できたか。 | 生徒の観察、ワークシート、 自己評価 |
| 検証2 | 感じたことを言葉にして伝え合うことができたか。 互いの感じ方や考え方に気づいたか。 考えが深まったか。 | 生徒の観察、ワークシート、 美術の実態調査アンケート(事後)、 相互評価、自己評価 |

(5) 資料・準備

- ・作品(複写)・・・構想画(ダリ、マグリット)、風景画(葛飾北斎、クールベ)
- ・ワークシート・自己評価表
- ・グループ鑑賞まとめ表、付箋紙(質問により色を変える)、マジック、セロテープ

(6)本時の指導過程

| 段階 (分) | 学習 形態 | 学 習 活 動 [] 検証の視点 | 教師の支援・留意点 (予想される児童の反応) | 評価 資料・準備物 |
|-----------------------------|-------------|---|---|---|
| 導入 10分 | 一斉 | 1 前回の対話型鑑賞法を思い出させ、今日の学習内容を確認する。 (1)観る視点、鑑賞の仕方を確認する。 (2)比較鑑賞方法について確認する。 (3)学習の流れを確認する。 | ・今日の学習内容と目標、比較鑑賞方法の仕方を知らせ、意識を持たせる。 例 観る視点を持って、4点の作品を仲間分けする。 | 作品（掲示用、縮小版） 鑑賞を楽しんでいるか (関・意・態) |
| 二つの作品を比較し、物語を語りながら、違いを考えよう。 | | | | |
| 展開 30分 | グループ 20分 | 2 グループで話し合い、作品からのメッセージをまとめる。 (1)美術作品を2点、各グループで選択する (2)話し合う。 (3)比較鑑賞したことをグループで表にまとめる。 ・隠された物語 ・題名 ・作品からのメッセージ (付箋紙に書かせ、表に張り出す。) | ・互いの考えを伝え合う活動の中で、それぞれの作品を比較し、形や色、素材などの構成表現などに視点を置いて想像させる。 ・隠された物語 ・題名 ・登場人物 ・作者 などをイメージし、作品からのメッセージをまとめる。 (夏の海、冬の海) (渦巻き、水平線) (二つの絵は、なにが表現されているのだろうか?) ・いろいろな見方や考え方に気づかせる。 (荒れる海に飲まれそうな...) (暗い海の向こうから何かかが...) ・グループ間の活動が進まないところは、比較鑑賞する際の視点を決めさせる。 | 作品 グループ活動表、付箋紙 自分なりの考えがまとめられたか (鑑賞の能力) 発想の仕方 多様な表現のよさや美しさを感じ取れたか。 (鑑賞の能力) 意欲的に作品を比較しながら、題名や物語をイメージできたか。 (関・意・態) |
| | | 検証1 視点 作品のよさや美しさが発見できたか。 | | |
| | | 検証2 視点 感じたことを言葉にして伝え合うことができたか。 視点 互いの感じ方や考え方に気づいたか。 | | |
| 一斉 10分 | | 3 いろいろなグループの比較鑑賞を理解する。 (1)グループごとに発表する。 (2)各グループの発表を静かに聞く。 (3)各グループの比較した視点を見つける。 (4)発表を聞いて気づいたことをワークシートにまとめる。 | ・それぞれのグループや同じ作品どうしのグループの発表より多様な見方や感じ方、考え方に気づかせ、自己の見方や感じ方を広げさせる。 ・作品に込められた表現方法や作者の思いに気づかせ、発表 | |

| | | | | |
|--------------------|-------------------|--|---|---------------|
| <p>まとめ 10分</p> | <p>個別 10分</p> | <p>4 本時の学習を振り返る。 (1)二つの作品鑑賞によるグループ学習の感想をまとめる。 (2)今日の授業の感想を発表させる。 (3)自己評価をする。 (4)これまでの3時間の鑑賞を通しての感想をまとめる。</p> <p>----- 検証2 視点 考えが深まったか。 検証1 視点 興味・関心を持ち、作品を鑑賞しているか。</p> | <p>させながら、感性を深めさせる。</p> <p>・比較鑑賞で気づいたことや感想をまとめさせる。 (同じ作品でもいろいろな見方や考え方があり、作品には、それらがたくさん込められていることに気づいた。) (友だちと話し合うことでいろいろな考えや感じ方があることに分かった。) (じっくり考えることができた) (作品に使われていた表現方法をこれからの作品づくりに生かしたい。)</p> | <p>ワークシート</p> |
|--------------------|-------------------|--|---|---------------|



(7) 板書計画
黒板

今日の学習目標 鑑賞「 二つの作品を比較し、物語を語りながら、違いを考えよう 」

| | | | |
|------|---|---|---|
| 作品 A | B | C | D |
| | | | |

板書用パネル

作品からのメッセージ

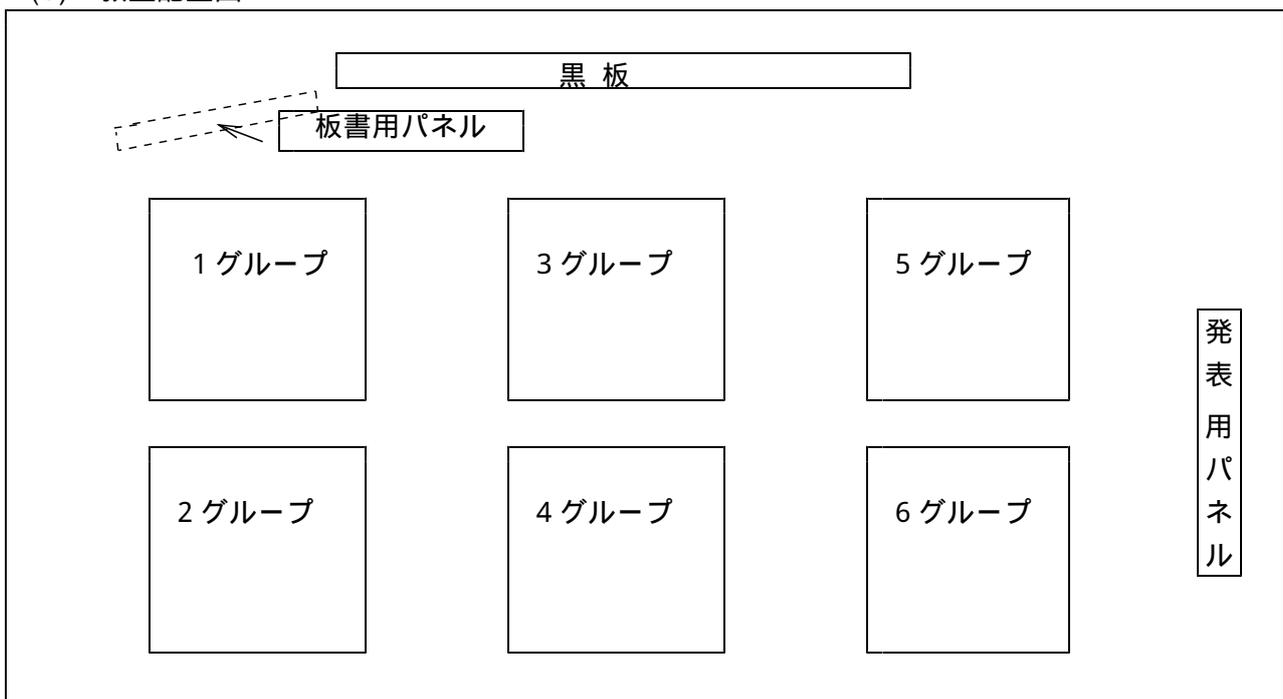
観る視点 ... 色 形 構成

鑑賞の仕方 ... 物語 題名

比較鑑賞

- 1 今日の学習の流れを確認する。
グループで話し合い作品からのメッセージをまとめる。
発表する。
- 2 今日の授業を振り返って、まとめる。

(8) 教室配置図



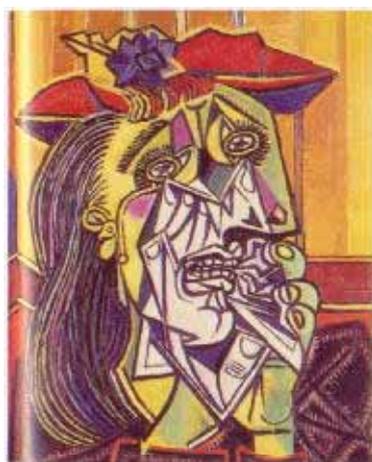
(9)鑑賞作品資料

三上誠 「F市曼荼羅」1950年 屏風 紙本着色 (1815×1820mm) 福井県立美術館



この作品は、戦争で荒れ果てた広大な大地。戦禍の跡の建物や中央テーブルに苦悩の表情を浮かべた二人の人物、天には花(椿)を持った妖精と向かい合うように二人の予言者を描いている。F市とは、作者の故郷であり、曼荼羅とは、諸尊の悟りの世界を表すものである。(通常、曼荼羅は一定の方式に基づいて、諸仏・菩薩及び神々を網羅したもの)西洋的な画風の中に伝統的な題材を設定し、戦後の混乱した人々へのメッセージを曼荼羅という主題を用いて、画面上の雲や妖精が持った花(希望)や予言者二人は仏を表している。色彩や構図、モチーフの写実的な表現方法などからも生徒が現実にあるものから連想がしやすく、物語としてのイメージを広げやすい教材である。

パブロ・ピカソ 「泣く女」1937年 油彩(60×49cm) ロンドン テイトギャラリー蔵



絵のモデルは、ラ・マールという女性がモデルになっており、描かれたモチーフから色彩や構成、感情をイメージしやすい。モデルのいろいろな面から観察したものを一つの画面の中に一つの立体としてより的確に構成しており、生徒の関心を引くものになっている。また、目から見える形や色彩をそのままに表現するのではなく、変形したり色を変えたりしていたり、自分が表現したいことを強調するキュウビズム(立体派)の技法を学ぶことができるものである。また、ピカソの絵画の技法や現代芸術に及ぼした影響を学習する上で、よい教材である。これをグループによる鑑賞活動に取り入れることで、いろいろな見方、考え方が広がり、作品からいろいろな価値が発見できるのではないかと考える。

葛飾北斎 「富嶽三十六景より、神奈川沖浪裏」1831年以降 多色木版 (22×38cm)



日本を代表する浮世絵の一つである。渦巻き型構図による冬のダイナミックな波の動的な構図は、観るものに強い印象を与え、海に木の葉のように浮かぶ渡し船の、自然に翻弄されている様子も伺える。また、船を三艘描き、後ろに富士山を持ってくることで、遠近感も感じられるような構図になっている。色彩や画風から時代背景をイメージすることができる。

また、江戸時代は経済的にも安定した時代であり、庶民の生活にもゆとりが出初め、相撲、歌舞伎、くじ、旅行などの娯楽が流行した。その中の旅行は、富士山を信仰対象にした名所巡りが中心で、この作品は、その三十六景の中の1つである。

ギュスタブ・クurlベ 「波」1870年頃 油彩（72×92cm）東京 国立西洋美術館



写実的な描写による波の渦巻く様子が描かれている。安定感を感じさせる水平線構図の中に波の躍動的な渦巻き型構図が組み合わされており（複合型構図）、観るものに静かな中に自然の力強さや迫ってくるような印象を持つことができ、感情的なイメージや写実的な表現方法に学ぶことができるのではないかと考える。作品をじっと見ていると、その波のうねりに引き込まれそうな力を感じるが、それとは逆に、空が無限で、地球を包み込むような広がり、雲が厚くたれ込めるその向こうには、澄んだ空があり、うねる大波の深い底には、静かな海があることを感じさせる。

サルバドール・ダリ 「記憶の固執」1931年油彩（241×330mm）ニューヨーク近代美術館



夢に見るような現実にはないもの、心のスクリーンに映し出されるイメージを忠実に抽象と幻想の入り混じった不思議な世界を表現したのが、シュルレアリスム（超現実主義）である。これは人間の心の中にだけある未知の世界といってもよい。

ダリの絵の特徴は、スーパー・ソフトという「柔らかな時計」や一つの絵画から2つの表現を描くダブルイメージの表現方法がある。この絵には、アンシュタインの相対性理論に基づいて、時間に縛られる人間の反抗を枯れ木は「死」を象徴している。また、柔らかな時計は時間

のゆがみで「生」を、遠くに見える海と陸は人の生の誕生や生活を表現している。

ルネ・マグリット 「大家族」 1963年 油彩（100×81cm）宇都宮美術館



「目に見える思考」を表現したマグリットの絵画は、世界にある神秘を独自のイメージで提示した物である。この作品は、切り抜きのように周りとは異なる情景を表現している。鳥の中の晴天と周りのどんよりとした空の情景が比較され、鳥の中は、安全・安心・平和を表し、周りの情景は、現実の世界の厳しさ、波のうねりにもそれらが表現されている。しかし、限りなく広がる海には、果てしない未来が水平線の向こうに存在することをメッセージとして表現している。現実の世界を不思議な表現方法で構成している。ダリやエルンストンの無意識の世界の表現とは異なる。

と、との作者や表現方法が異なる作品を比較することで、いろいろな視点による見方や感じ方など鑑賞を深めることができ、表現方法や製作者、国、時代背景など

さまざまな視点に目が向けられるのではないかと考える。また、グループによる話し合いにおいても、互いに考えや思いを伝え、理解し合え、鑑賞の楽しさを味わせられる教材ではないかと考える。

研究のまとめ

1 研究仮説(1)の検証

じっくり作品と向き合わせる鑑賞活動の工夫をすることにより、作品との対話を深め、作品のよさや美しさが発見できるであろう。

(1) 検証の視点 : 興味・関心を持ち作品を鑑賞しているか。

第1時では、生徒が取り組みやすいように、多数の具象的なモチーフで構成され、物語性を感じやすい構想画を教材として選択し、実物の大きさに近いものを提示して、一つの作品をみんなで鑑賞する活動からスタートした。生徒に「何が見えますか、何が表現されていますか」「どうしてそう思いますか」と問いかけ、感じ取ったことを自由に発言させた。その際、全ての意見を受容することで、人と違ってよいこと、感じたことに間違いはないことを知らせた。個別の活動では、手に取って観られるように、縮小版を用意し、物語や題名、作品に込められたメッセージを考えさせる学習を行った。このような活動を通し、多くの生徒に、主体的に作品と向かい合い、じっくりと観る様子が見られた。



縮小版をじっくりと鑑賞している生徒

第3時では、タイプの違う4点の作品を提示し、「一番興味があるのはどの作品か」という質問をすることにより、生徒に作品をじっくりと観させる活動から始めた。生徒は意思決定のためにじっくりと作品に向かい、興味がひかれた視点や作品のよさや美しさの考えを言葉に表すことができた。さらに、グループで鑑賞作品を2点選択させた。どのグループも、自分たちで選んだ作品を主体的に鑑賞し、様々な視点で比較鑑賞することができた。

生徒の感想(第1時)

| ワークシートからの生徒の声 |
|---|
| <p>たった一つの絵なのに、考えながら観ると色々なことが感じ取れていいなあと思った。 絵を観て、いろんなイメージをして、どんな思いでこの絵を描いたのかなど考えることができた。 題名も何も知らない絵を観て、いろいろイメージするのはとても楽しい。 細かいところにも注目してみる。 絵を観て、物語とかを考えるのは楽しかった。</p> |

生徒の感想と参観者の評価(第3時 公開授業)

| ワークシートからの生徒の声 | 参観者の評価 |
|--|---|
| <p>この授業でいろいろな作品を観て、絵の見方というものも変わりました。いろんなことを知って楽しかったです。 これからも4点の作品の他に、家にある作品を鑑賞していきたいです。 前より鑑賞が楽しく思えた。でもグループでするといろいろな意見が出てきて、とても面白かったし、楽しかった。 普段の授業の中で、絵が出てきても色とか物語とか全然考えていなかったけど、鑑賞の授業をやることによって、作品からたくさんの物語やメッセージに気づくことができた。</p> | <p>前時に比べ、他のグループ発表をしっかりと聞き興味・関心を示し、改めて作品を鑑賞している姿勢が見られた グループ鑑賞以外の作品にも興味・関心を示しもっと観たいという生徒もいて鑑賞する楽しさが分かったのではないかと。 作品が大きいので、興味を示し生徒たちが作品に見入っており、効果があったと思う。</p> |

(2) 検証の視点 : 作品のよさや美しさが発見できたか。

第1時では、川上誠の「F市曼荼羅」を鑑賞用の作品として選択した。この作品は画面の上下に対照的な意味合いの構成で、構成されている形も人、花、建物、ランプなど生徒が捉えやすい。色や形、構成など鑑賞の際の視点を持たせ、さらに、何が描かれているのか、何が表現

されているのか、作品の何を観てそう感じるのかななどの発問から、作品の物語や題名を想像し、作品に込められたメッセージを考えさせる学習を行った。そのことより、生徒はそれぞれに違った視点から物語や題名、メッセージを考えることができた。

第2時では、ピカソの「泣く女」を選択した。この作品は、人物の様々な感情が一つの画面にキュウビズムによる表現方法で描かれており、第1時で学んだ鑑賞法をより深めることができる作品だと考える。色や形、構成など作品を表現している事柄に見る視点を持つことや物語や題名などをまとめる鑑賞の仕方の方法を基に、このような多様な表現方法による作品を鑑賞させることで、第1時の視点をより深め、「氷のような涙」「ハンカチを噛みしめているみたいなどころからすごく悲しんでいる、悔しそう」などの発言やグループ活動の様子、ワークシートの記録から、生徒はそれぞれの視点からより深く作品と向き合い、自分なりに作品からのメッセージを受け取っていることが分かる。

第3時では、日常の世界を表現した風景画と現実にはないイメージの世界を表現した構想画をそれぞれ2点ずつ、計4点の作品を教材として選択した。グループごとに、その中から2点選ばせ、比較鑑賞させることにより、それぞれのよさや美しさを見つめることができた。



物語や題名を話し合っている生徒たち



じっくりと作品を観る生徒の様子

生徒の感想（第1時）

ワークシートからの生徒の声

下のランプに火がついたときに、人々に幸運が訪れて、それが希望の光となると思ったから。題名「女神からの幸運」
 上は新しい世界で、下は戦争が終わったばかりの世界だからいい世界になるように。題名「新しい世界」メッセージ「平和を願う気持ち」
 オレンジ系の色が「新しい」感じなので「新しい世界」を、上に「枝」を持った人がいる。それを植えて育てて、大きくなるまで「希望を捨てないで」といっているみたいだから。題名「新しい世界と希望」

生徒の感想（第2時）

ワークシートからの生徒の声

水色の部分が涙のように見えて、涙が氷のように見えたから。題名「氷の涙」
 女の人が開心している様子をマツゲを長く少し怖い感じで描いて、目が星みたい。ハンカチみたいなものを噛んでいるのでとても悲しんでいる感じがする。題名「悲しみ」
 目みたいなもの下の水色の部分が涙みたい。背景は、明るい色が使われているから。題名「泣く女性と明るい部屋」

生徒の感想と参観者の評価（第3時 公開授業）

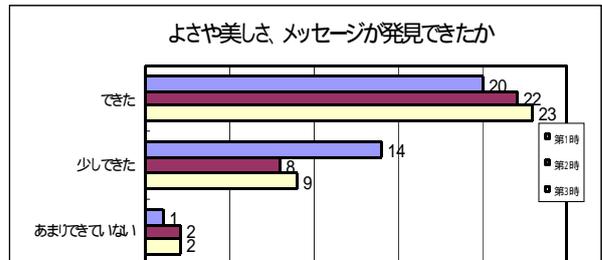
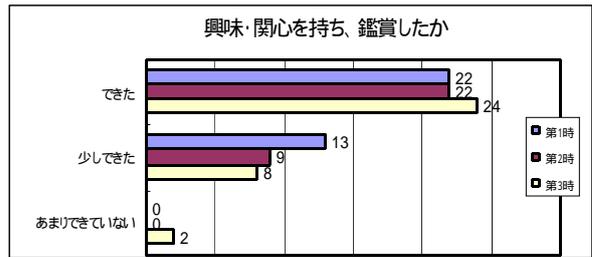
| 生徒の発言 | 参観者の評価 |
|---|--|
| 僕は、勢いのある波の絵がいい。 何か時計が不思議な感じがする。 鳩の絵が今にも羽ばたきそうで興味をひかれる。 鳩の中の空は平和で、周りの空は現実を表している。 緑の波の絵がいい。空の明るいところが、平和で何かこれからいいことが起こりそうな感じがするから。 | 作品のどの部分に興味をひかれるかで、主体的に作品をじっくり観察し、自分の考えを発表していた。 生徒の発想には驚かされる。自分なりに作品を鑑賞しているのが感じられた。 縮小版を活用し、いろいろな色や形などに表現していることについて、お互いが考えを出し合っているのが見られた。 |

(3) 考察

自己評価の「興味・関心を持ち、鑑賞したか。」では、「できた、少しできた」と肯定的に答えた生徒が、第1時35名、第3時32名といずれも9割以上いる。授業中の生徒の発言やワークシートに記録された内容も多様的で、一人一人が自分なりの視点を持って主体的に鑑賞していることが分かる。また、「自分なりに作品のよさや美しさ、作者のメッセージが発見できたか。」の自己評価でも、第1時34名、第2時30名、第3時32名と9割以上の生徒が「できた、少しできた」と肯定的に答えている。

これらのことから、生徒は作品とじっくり向き合わせる鑑賞活動の工夫をすることにより、作品との対話を深め、作品のよさや美しさが発見できたといえる。したがって、研究仮説(1)は検証できたと考える。

生徒の自己評価



2 研究仮説(2)の検証

生徒相互のコミュニケーションがある鑑賞活動を工夫することにより、一人一人の考えが分かり、考えが深められるであろう。

(1) 検証の視点 : 感じたことを言葉にして伝え合うことができたか。

第2時では、まず、個人で鑑賞させた後、グループで話し合う活動を行った。一人一人が自分の意見を持って話し合いに臨むことにより、活発な話し合いができた。

第3時では、グループで鑑賞する作品を2点選らび、比較鑑賞させた。どの作品を選び鑑賞するかの話合い、さらに、それぞれの視点や考えをグループでまとめる活動において、コミュニケーションが深まった。

生徒の感想(第2時)

| ワークシートからの生徒の声 |
|--|
| みんないろいろ考えていた。 みんなの意見でいっぱい分かった。 みんなでそれぞれ違うのを感じていたことに気づいた。 ほとんどが涙のことについて、物語を考えていた。 「泣いている」とか「悲しい」という言葉が使われていた。 |

生徒の感想と参観者の評価(第3時 公開授業)

| ワークシートからの生徒の声 | 参観者の評価 |
|---|---|
| 鑑賞がグループですると、いろいろな意見が出てきてとても楽しかった。 みんないろいろな意見を言って、話し合っているまとまった。 皆、この絵からイメージを感じ取っていた。 絵を描くのも楽しいが、絵を見て話し合ったり他の人の考えを聞いて自分の世界がまた広がるというのも楽しみです。 みんなで、物語とかを考えるのが楽しかったいろいろな題名が出ていた。 | 生徒が自分の見方で、自分自身の考えを持ち各グループで一人一人が活動していた。感性が出ていっていた。 2点を比較するのに時間が掛かっていたが、お互いが意見を出し合いまとめていた。 |

(2) 検証の視点 : 互いの感じたことや考え方に気づいたか。

第2時では、個人の意見を出し合いグループの考えを一つにまとめる活動を行った。生徒は、友だちのいろいろな意見に耳を傾けながら、どうしてそう考えたのか質問したり、自分の考えを伝えたりと疑問や感動を伝え合う活発な活動が見られた。その中で、「自分の考えとは違う見方で色を観たり、形を観たり表情をみたり…」という発言や、「いろいろな視点(見方)がある。」という感想などにより、互いの感じ方や考え方の共通点や相違点に気づいていることが、授業中の発言やワークシートの記録からも見られる。



互いの考えを伝え合っている生徒たち

第3時では、作品選択の場面で意見の相違が見られた。生徒は、興味をひかれた視点を出し合い作品を選んでいく過程で、友だちの意見を認めるとともに自分の意見も出しながら、それぞれの考えていることに理解を深めていった。比較鑑賞の場面でも、共通の視点を持って、意見を出し合い、友だちのいろいろな感じ方や考え方に気づきながら、グループの意見をまとめていく様子が見られた。

生徒の感想(第2時)

| ワークシートからの生徒の声 |
|--|
| <p>ほとんどが「涙」についての物語を作っていた。 同じような内容でも題名はみんな違っていた。 自分の考えとは違い色を観たり、形を観たり表情をみたりと、いろいろな考えがあった。 みんな自分が気づかなかったことに気づいた。 いろいろな視点(見方)がある。</p> |

生徒の感想と参観者の評価(第3時 公開授業)

| ワークシートからの生徒の声 | 参観者の評価 |
|--|--|
| <p>同じ絵を観ていても、みんないろいろ感じるものが違って、僕一人では感じ取れないことが、グループで感じ取っていき、すごく楽しかったです。 一つ一つのグループの違う考え方や意見がとても面白かったり興味深いものもあった。聞いていて楽しめた。 作品を比較して、みんなで話し合いながら意見をまとめて、発表したけど、みんなそれぞれ違う考えを持っていて、びっくりした。 絵の見方には、いろんな見方があるんだなあと思った。形で観たり、色で観たり、いろんな見方があって楽しかった。</p> | <p>前時の個人鑑賞を基にグループ鑑賞学習をしていたが、本時でも個人で感じ取った考えを伝え合う中に、さまざまな反応が見られた。 グループ鑑賞の中で、自分と同じまたは違った意見を認めることにより、見方が広がっていたのではないだろうか。 自分の考えがしっかりと持てなかった生徒も他の友だちの考えを聞くことにより、自分なりの考えが深まっていたようだ。</p> |

(3) 検証の視点 : 考えが深まったか。

第2時では、「作品の中にどのような物語があるのだろう」「題名を付けるとしたら何だろう」「作品からのメッセージは何だろう」と発問し、個々の考えを深め合うコミュニケーションを促した。さらにグループの発表時には、聞く視点を提示することで、自分たちとは違う見方や考え方があることに気づき、改めて作品を見直したりするなど、鑑賞が深まったことが、ワークシートのまとめからも分かる。

第3時では、2点の作品を比較鑑賞し、グループの意見をまとめる活動で、互いの意見や考えを伝え合い、認め合う様子が見られた。ワークシートからも、作品への見方や考え方を広げながら、鑑賞深めていることが分かる。

- 絵を観て、いろいろな見方ができるようになった
- 自分では気づかない顔の角度からの見方を友だちから気づかされた。最初は、読み取れなかったけど、観ていく内にだんだん想像できた。
- 他の人と考えが似ていても感じ方は異なるということ、別の角度から観ると違うということを知りました。

生徒の感想と参観者の評価（第3時 公開授業）

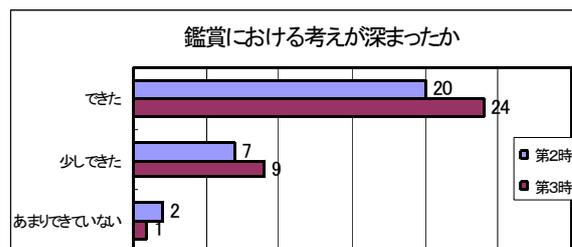
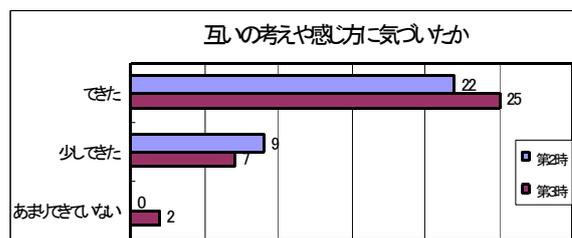
| ワークシートからの生徒の声 | 参観者の評価 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○一つの絵でも、いろいろな見方ができるので、いろいろな見方を試してみようと思う。 ○色で暗い、明るいと感じたり、形で何に見えるかなと鑑賞したり、別の作品を見比べて鑑賞するといろいろな違いを見つけることができると知りました。 ○みんなで意見を楽しく出し合い、自分の考えも広がった。 ○見方や考え方で、作品に対するイメージも変わっていくんだなあって思いました。 | <ul style="list-style-type: none"> ○同じ作品でもグループによってそれぞれ違う視点を持って、作品を比較鑑賞していて、生徒の発想には驚かされる。 ○発表により、生徒たちが深く鑑賞しているのが感じ取れた。 ○2点をよく、比較鑑賞していた。1年生には1点を取り上げ鑑賞を深めさせた方が、時間的に良かったのでは。比較の部分は他のグループのまとめと比較した方が良かったのでは。 |

(4) 考察

自己評価の視点①「互いの考えを伝え合うことができたか。」では、「できた、少しできた」と答えた生徒が、第2時29名、第3時32名いる。視点②「互いの考えや感じ方に気づいたか。」では、「できた、少しできた」第2時31名、第3時32名いる。視点③「考えが深まったか」では、「できた、少しできた」第2時27名、第3時33名と、いずれのも9割以上の生徒が肯定的に答えている。

授業中に活発に話し様子が見られ、ワークシートの記録からも話し合いの中で、考えが深まっていることが分かる。これらのことから、生徒相互のコミュニケーションによる鑑賞活動を工夫することにより、感じたことを伝え合うことができ、互いの感じ方や考え方が分かり、鑑賞活動が深められた。研究仮説(2)は検証できたと考える。

生徒の自己評価



グループの話し合いの様子



各グループの発表の様子

3 研究の成果と課題

(1) 成果

教材の選択を工夫し、生徒の感じ取ったことを中心に授業を進めていくことで、主体性のある鑑賞ができた。

鑑賞の視点を示し、鑑賞を進めていくための発問を工夫することにより、自分の感じ取ったことを言葉にまとめながら、考えを明確にしていくことで、作品のよさや美しさに気づかせ、作者からのメッセージを考えさせることができた。

互いの考えを伝え合い、認め合う活動を通して、自己効力感や相互理解を得るとともに作品への理解を深め、鑑賞の楽しさを味わわせることができた。

グループでの比較鑑賞の活動を通して、グループ間のコミュニケーションを深めるとともに、見方や考え方を広げながら、鑑賞を深め、感性が高められ、豊かな心の育成ができたと考ええる。

(2) 課題

授業中の態度や感想などでは満足している生徒が多かったが、授業前後の意識調査では、「美術が好き」「鑑賞が好き」と答えた生徒の割合に変化が見られなかった。1単元だけの取り組みではなく、年間計画を見直し、中学3年間を見通した鑑賞活動を工夫・実践していくことが必要である。

離島という条件の下、大きな美術館や作品展などがなく、本物に触れる機会が少ない。そのため、美術作品を展示するなどの校内環境作りや授業で取り扱う教材の選択を工夫し、生徒を取り巻く美術鑑賞の改善を図る必要がある。

生徒の主体的な鑑賞活動を広げるために、作品鑑賞で生じた疑問の解決や作品理解のための情報収集などへの調べ学習の時間や場の確保など、鑑賞活動の多様性を図る必要がある。

4 おわりに

「生徒一人一人の心は豊かで、その感性は光る原石のようである。」これが、この6ヶ月の研究を実践検証してきたの感想です。

鑑賞活動というのは、美術教師として、先人たちの芸術活動の軌跡を生徒に伝えることだと思います。芸術の幅は広く、奥深く、絵画、彫刻、工芸、デザインの様々な分野に、それぞれの違った背景（国、歴史）や技法をもった作品があります。一つの作品に込められた作者のメッセージや歴史的背景や表現への葛藤など、様々なことを生徒自身の素直な目と心を大切にしながら感じ取らせてきました。一人一人が感じ取ったことに間違いはないことを伝え、鑑賞することに自信を持たせることができたと思います。また、グループ鑑賞では、コミュニケーションを深めることで、自己効力感を得させ、他者理解、作品理解へと繋がられました。「鑑賞は楽しい」「もっと知りたい」という生徒の意欲を知り、一人一人の感性や豊かな心を育成していくことが、教師の責務であると改めて考えさせられました。

このような、研究が進められたのは、研究を認めていただいた行政関係者の皆様を始め、指導助言を頂いた先生方、温かく励ましてくださった先輩研究員の皆様や研究所の職員の皆様、実践研究を支えてくださった北中学校の先生方のお陰だと思っています。本当に充実した研究でした。これからは、現場において、この研究で得たことを生かしながら、生徒一人一人の美術への学びを深める手立てを工夫し、美術の表現活動や鑑賞活動の中で、生徒一人一人の感性や豊かな心を育てていきたいと思っています。

【主な参考文献・引用文献】

| | |
|---|--------------|
| ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説 美術編』 日本文教出版株式会社 | 2008 |
| ・中央教育審議会 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領などの改善について」(答申) | 2008 |
| ・遠藤友麗 『学習指導と絶対評価の考え方』日本文教出版株式会社 | 2004 |
| ・遠藤友麗 『豊かな感性を育てる教育とその理論』日本感性教育学会 「幼児期及び児童・少年期の『夢と感知融合教育』を」 | 2001 2005 |
| ・TEAM'S 山田一文 『ひらけゴマ - 鑑賞のとびら - 』日本文教出版株式会社 | 2005 |
| ・山田朝彦 仲野泰生 管章 『美術鑑賞宣言 学校+美術館』日本文教出版株式会社 岡本芳枝 「鑑賞能力の発達段階理論とMOMAの鑑賞教育」 栗山裕至 「比較に基づく鑑賞事例1」 田中好文 「比較に基づく鑑賞事例2」 | 2003 |
| ・教育課程研究センター 「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(中学校) - 評価規準、評価方法等の研究開発(報告) - 」 | 2002 |
| ・上野行一 『まなざしの共有 アメリカ・アレナスの鑑賞教育に学ぶ』株式会社淡交社 | 2001 |
| ・アメリカ・アレナス/木下哲夫 『みる・かんがえる・はなす』株式会社淡交社 | 2001 |
| ・遠藤友麗 海老名智子 永関和雄 『鼎談 中学校新教育課程 美術科の授業をどう創るか』明治図書出版株式会社 | 1999 |
| ・志賀直哉 『志賀直哉全集 第7巻』岩波書店 | 1974 |

資料

美術科検証授業指導案（第1時）

平成21年1月19日（月）5校時
1年2組 男子20名、女子16名
授業者 友利 尚子

1. 題材名：鑑賞「 美術作品に込められたメッセージを読み取ろう 」

2. 目 標：作品からのメッセージを読み取ろう。

3. 本時のねらい

今回の鑑賞の授業において、基本的な鑑賞の仕方を身に付けさせるために、作品に関する知識中心型の鑑賞でなく、まず、対話型鑑賞法による生徒自身の素直な目と心で「観る」ことからスタートする。次に、形や色、材料、表現方法や表現意図など作品のあらゆる視点に目や心に向けさせることにより、題材や製作者、何が描かれているのかなどの質問に対する答えを主体的に見つけ出させるようにしたい。教材には、物語性のある作品を取り上げ、「これは何だろう？」と作品に語りかけながら、じっくりと観させ、自分の感じ取ったことを自己の内面から導き出していく主体的な鑑賞活動を展開していきたい。

4. 授業の流れ

| 時間 | 学習内容 | 指導上の留意点 | 検証評価 |
|------------|--|--|------|
| 導入 10分 | 本時の流れを確認する 提示された美術作品を鑑賞し、何が表現されているのか、どのような物語が隠されているのかを見つけ文章で表す。 | 感想を書かせることにより、主体的に鑑賞させる。 ア．指名し、感想を答えさせる | |
| 展開 40分 | 色や形などの構成に視点を置き、作品をじっくり観ながら、どのような物語があるのか、題名やどんな人が描いたのかなど、自分の考えを言葉にまとめる。作品のなにを観てそう感じたのか、どうしてそう思うのかについても鑑賞を深める。 | 作品への対話を深めさせ、さまざまな表現方法から作品のよさや美しさ、メッセージに気づきさせる。 ア．絵を観る視点を持たせる。 色や形、構成 イ．鑑賞の仕方ですべてから感じ取ったことをまとめさせる。 物語、題名 ウ．作品からのメッセージを考える。 | 仮説1 |
| まとめ 10分 | 作品鑑賞を振り返り、鑑賞の仕方や感想をまとめる。 | 感想をまとめることにより、鑑賞の仕方を確認させ鑑賞する楽しさを味わわせる。 自己評価 次回の授業を確認させる。 | 仮説1 |

5. 評価の観点

- 1) 作品鑑賞より、感性や想像力を働かせて、作品を構成している色彩や形などに視点を置き、自分の見方や感じ方でそれぞれの表現の工夫や作者の心情、意図、よさや美しさなどを感じ取り、題名や作者をイメージすることができる。（鑑賞の能力）
- 2) 作品の多様な表現に興味・関心を持ち鑑賞しながら、題名などをイメージしたり、意欲的にそれぞれのよさや美しさを味わおうとしている。（関心・意欲・態度）

美術科検証授業指導案（第2時）

平成21年1月26日（月）5校時

1年2組 男子20名、女子16名

授業者 友利 尚子

1. 題材名：鑑賞「 美術作品に込められたメッセージを読み取ろう 」

2. 目 標：グループで作品から物語を考えよう。

3. 本時のねらい

前回の鑑賞の授業において、学習した作品を観る視点や鑑賞の仕方を基に、多様な表現方法による美術作品を鑑賞させ、作品に込められているメッセージを感じ取らせることにした。

まず、作品をじっくりと観て、個人鑑賞をしっかりと持たせながら、グループで互いの考えを伝え合いながら、物語や題名、作品からのメッセージをまとめる活動をさせることにより、他者理解や作品理解を深めさせたい。そのことにより、生徒一人一人の作品を鑑賞する見方や考え方を広げ、鑑賞する楽しさを味わわせたい。

4. 授業の流れ

| 時間 | 学習内容 | 指導上の留意点 | 検証評価 |
|------------|--|--|------|
| 導入 10分 | 本時の流れを確認する 提示された美術作品を鑑賞し、何が表現されているのか、どのような物語が隠されているのかを見つけ文章で表す。 | 事前に学習した鑑賞の仕方をさせる。 ア．個人鑑賞をさせることで、しっかりと自分の考えを持たせる。 | 仮説1 |
| 展開 40分 | 互いの考えを伝え合い、質問したりしながら、グループとしての考えをまとめ、作品に隠された物語をまとめる。 物語、題名、作品からのメッセージ発表する。 | 互いの考えを伝え合うことよりいろいろな見方や感じ方を広げ、作品を理解する。 ア．グループ活動における役割を決めさせる。 イ．グループの考えを一つにする。 各グループの発表をしっかりと聞き、違いに気づかせる。 | 仮説2 |
| まとめ 10分 | グループ鑑賞活動における自己評価と感想をまとめる。 自己評価、相対評価、感想 | グループ活動により、鑑賞する見方や感じ方を広げ、鑑賞する楽しさを味わわせる。 次回の授業の確認をさせる。 | 仮説2 |

5. 評価の観点

- 1) グループ鑑賞活動を通して、いろいろな見方や感じ方や見方で、表現のよさや美しさ、作品からのメッセージを感じ取りながら、物語や題名をイメージすることができる。（鑑賞の能力）
- 2) 作品の多様な表現に興味・関心を持ち鑑賞しながら、グループで、意欲的にそれぞれのよさや美しさを味わおうとしている。（関心・意欲・態度）

グループ展覧個人用ワークシートNo.1

| 展覧の目標 | | 年 | 組 | 番 |
|---|--|---|---|---|
| 題名 物語 を 考 え よ う | | 理由 (作品のどこから考えたか) <div style="border: 1px dashed black; height: 100px; width: 100%;"></div> | | |
| <input type="checkbox"/> ヒントホドだね、どうしたの、展覧の角度 作品からのメッセージを考えよう。 | | | | |
| <input type="checkbox"/> 各グループ発表で、気づいたことをまとめよう。 | | | | |
| <input type="checkbox"/> グループでの作品展覧と個人展覧を比べて、気づいたことを考えよう。 | | | | |
| <input type="checkbox"/> グループの評価・・・A できた B 少しできた C あまりで感なかった (Oで囲む) ・互いの考えを言葉にして伝え合うことができたか。 A B C ・互いの感じ方や考え方に気づいたか。 A B C ・展覧における考えが深まったか。 A B C ・作品からのメッセージをまとめることができたか。 A B C | | | | |
| <input type="checkbox"/> 自己評価・・・A できた B 少しできた C あまりで感なかった (Oで囲む) ・展覧の仕方を理解し、展覧の楽しさが分かったか。 A B C ・興味・関心を持ち、作品を展覧できたか。 A B C ・自分なりに作品のよさや楽しさ、作者のメッセージが発見できたか。 A B C ・作者や作品、その他の美術作品について、もっと知りたいと思ったか。 A B C | | | | |
| <input type="checkbox"/> 展覧の感想を考えよう。 | | | | |

作品展覧個人用ワークシートNo.1

| 展覧の目標 | | 年 | 組 | 番 |
|---|--|--|---|---|
| 題名 物語 を 考 え よ う | | 理由 (作品のどこを展覧でが展覧する) <div style="border: 1px dashed black; height: 100px; width: 100%;"></div> | | |
| <input type="checkbox"/> ヒントホドだね、どうしたの、展覧の角度 作品からのメッセージを考えよう。 | | | | |
| <input type="checkbox"/> 各グループ発表で、気づいたことをまとめよう。 | | | | |
| <input type="checkbox"/> グループでの作品展覧と個人展覧を比べて、気づいたことをまとめよう。 | | | | |
| <input type="checkbox"/> グループの評価・・・A できた B 少しできた C あまりで感なかった (Oで囲む) ・互いの考えを言葉にして伝え合うことができたか。 A B C ・互いの感じ方や考え方に気づいたか。 A B C ・展覧における考えが深まったか。 A B C ・作品からのメッセージをまとめることができたか。 A B C | | | | |
| <input type="checkbox"/> 自己評価・・・A できた B 少しできた C あまりで感なかった (Oで囲む) ・展覧の仕方を理解し、展覧の楽しさが分かったか。 A B C ・興味・関心を持ち、作品を展覧できたか。 A B C ・自分なりに作品のよさや楽しさ、作者のメッセージが発見できたか。 A B C ・作者や作品、その他の美術作品について、もっと知りたいと思ったか。 A B C | | | | |
| <input type="checkbox"/> 展覧の感想を考えよう。 | | | | |

資料 4

グループ鑑賞ワークシート No.2

| 組 | | 担当 | 記入する人 | 発表する人 |
|--------|-------------------|-------------------|-------------------|-------|
| 題 名 | グループ | 理由（作品のどこを観てか説明する） | | |
| | | 理由（作品のどこを観てか説明する） | | |
| 物 語 | ヒント＊線が、なにをどうした。角度 | | 理由（作品のどこを観てか説明する） | |
| | | | 理由（作品のどこを観てか説明する） | |



比較鑑賞個人用ワークシート№2

| | | | |
|--|---|---|---|
| 授業の目標 | 年 | 組 | 番 |
| | 名 | 組 | 番 |
| <p>○ 各グループの比較鑑賞発表で、気づいたことをまとめよう。</p> | | | |
| <p>○ グループの評価・・・Aできた B少しできた Cあまりできなかった(○で囲む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの考えを言葉にして伝え合うことができたか。 A B C ・ 互いの感じ方や考え方に気づいたか。 A B C ・ 鑑賞における考えが深まったか。 A B C ・ 作品からのメッセージをまとめることができたか。 A B C | | | |
| <p>○ 自己評価・・・Aできた B少しできた Cあまりできなかった(○で囲む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞の仕方を理解し、鑑賞の楽しさが分かったか。 A B C ・ 興味・関心を持ち、作品を鑑賞できたか。 A B C ・ 自分なりに作品のよさや美しさ、作者のメッセージが発見できたか。 A B C ・ 作新や作品、その他の美術作品について、もっと知りたいと思ったか。 A B C | | | |
| <p>○ 3時間の鑑賞活動を通しての感想をかこう。</p> | | | |

比較鑑賞ワークシート№1

| | | | | | |
|-------------------|------|-------------------|-------|-------------------|--|
| 組 | グループ | 担当 | 記入する人 | 発表する人 | |
| | | 作品 () | | 作品 () | |
| 時 | 間 | 理由 (作品のどこから) | | 理由 (作品のどこから) | |
| | | 理由 (作品のどこをから) | | 理由 (作品のどこから) | |
| (何が、どこで、どうなっている。) | | (何が、どこで、どうなっている。) | | (何が、どこで、どうなっている。) | |
| さ | | ら | | ら | |
| し | | し | | し | |
| の | | の | | の | |
| び | | び | | び | |
| の | | の | | の | |
| び | | び | | び | |
| の | | の | | の | |
| び | | び | | び | |

グループ発表ワークシート№2

2組 3グループ

司会 [blacked out] 記入する人 [blacked out] 発表する人 [blacked out]

題名 悲しみ

理由 (作品のどこから)

- *色が暗いところから泣いているように見えるから
- *まっすぐな目をうつろして悲しんでいる(こもりがみ)を出しているみたいだから

ヒント*誰が、なにをどうした。身原

物語

ある女の人が、病気にカガシ医者にあとツレしが生きられないといわれとても悲しんでいる。物語

理由 (作品のどこから)

女の人のおおの色がツレツレ暗いところからあつて、女の人のかつらとかがくらくらしているところ。

グループ発表ワークシート№2

2組 2グループ

司会 [blacked out] 記入する人 [blacked out] 発表する人 [blacked out]

題名 悲しみ

理由 (作品のどこから)

女の人のおおの表情が悲しんでいるようにみえるから

ヒント*誰が、なにをどうした。身原

物語

① 女の人がかわいい帽子をかいて、カレシのところへ向かいました。

② けど、つらねてしまいました。女性は、悲しくて、ずっと泣きっぱなしです。

理由 (作品のどこから)

かわいい帽子と泣いているせ性があるから

グループ発表ワークシート№2

2組 5グループ

司会 [blacked out] 記入する人 [blacked out] 発表する人 [blacked out]

題名 女性の涙

理由 (作品のどこから)

女の人が泣いているようにみえるから

ヒント*誰が、なにをどうした。身原

物語

女性

失われた女性が涙を流している!

理由 (作品のどこから)

ハンカチをまいて涙を拭き拭きしているよ?!

資料 7 (第3時 生徒の声)

| 比較鑑賞ワークシートNo.2 | | 作品 | 記入する人 | 発表する人 |
|-------------------------------------|--|------------------------------------|----------------------------------|--------------|
| 2 | 1 | グループ | | |
| 題名 | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) |
| ダイム トラベル | ダイム トラベル ・ダイム 中から下が、現在、 上が過去に見えたから。 | 泣きだした海 | 泣きだした海 ・未来の海をみているように 見えたから | |
| 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | |
| 人がタイムトラベルして 過去と現在を行ったり来たり してる | ↑が宇宙みたい口を開けて現 在みたいに見える。上が過去 みたいなのうけいに見えるた ら | 人々の悲しみに海も共 感し泣きだした。 ・海は空視で見た | | |
| 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | |
| 現在(いま)を 大切にしよう | | 悲しみが同じ | | |

| 比較鑑賞ワークシートNo.2 | | 作品 | 記入する人 | 発表する人 |
|------------------------------|---|----------------------|------------------------------|--------------|
| 2 | 2 | グループ | | |
| 題名 | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) |
| はばたく鳥 | 鳥がはばたくたいとい うように見えるから | 荒波 | 崖がきそうな、 荒々しい海だから | |
| 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) |
| 鳥がキレイな大空 へはばたくこうしてい る。 | 空は暗いのに、鳥の中は キレイな空だから、鳥は キレイな大空へはばたくた いと思っているし、い ないかなーと思ったから | 崖がこねからくる。 | 緑色のほし暗い空の 崖がくるのをみして いる | |
| 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | |
| これからのはばたくぞ!! | | 崖がくるぞ!! | | |

| 比較鑑賞ワークシートNo.2 | | 作品 | 記入する人 | 発表する人 |
|--|--|-----------------------|-----------------------|--------------|
| 2 | 3 | グループ | | |
| 題名 | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) |
| Time Strip | 時計がほんな形を表 さなくて、1つの時計 ごとに時間が3つから 減り、癒いに行くにつれて 未来に近づいていく感じ | 平和の鳥 | 鳥の絵の中は、大空が みえるから | |
| 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (作品のどこから) |
| ある日、白い生き物がぼつげ んをしい(生き物)時計を 使っていたら、時計がこぼ れ落ちてきた。それを拾って けんをいじると、3つ時計 と一緒に生き物の心臓が、 | 白い生き物が 消えかけている (進化しているみたい に見えたから) | 鳥が平和をさがす 旅をしている | 鳥が平和をさがして いるみたいだから | |
| 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | 理由 (何が、どこで、どうなっている。) | 理由 (作品のどこから) | |
| 日月をいっ未来に すために今を大切 にしよう!! | | これからの世界を 平和にしていきたい | | |

平成 2 0 年 度 宮 古 島 市 立 教 育 研 究 所 職 員

| 所 属 ・ 職 名 | 氏 名 |
|--|--|
| 所 長 主幹兼指導主事 指 導 主 事 | 本 村 幸 雄 友 利 直 喜 乾 邦 夫 |
| ○適応指導教室「まていだ教室」 指 導 教 諭 指 導 員 指 導 員 | 宮 国 貴 子 松 本 美 智 子 上 地 千 鶴 |
| ○教育相談室 教 育 相 談 員 教 育 相 談 員 教 育 相 談 員 教 育 相 談 員 | 垣 花 征 一 普 天 間 裕 砂 川 和 子 久 貝 清 順 |

研 究 報 告 集 録 (第 5 号) 平 成 2 1 年 3 月 発 行

発 行 宮古島市立教育研究所

〒 906-0392

沖縄県宮古島市下地字上地472-39

宮古島下地庁舎内 3 階

Phone : 0980-76-6400 Fax : 0980-76-6154

<http://www3.city.miyakojima.lg.jp/kenkyusyo/>
